

2019年度三重短期大学年報

三重短期大学評価委員会

目 次

三重短期大学年報刊行にあたって	1
2019年度三重短期大学の概況	2
1. 三重短期大学の理念と目的・教育目標	5
2. 組織	
1) 全学組織	
表1 設置学科・専攻等	7
2) 教員組織	
表2 全学の教員組織	8
表3 専任教員個別表	9
表4 専任教員年齢構成	13
3) 事務組織	
表5 事務組織	14
3. 教育	
1) 教育課程	
表6 学科の開設授業科目における専兼比率	15
表7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数	17
2) 教育内容と効果	
表8 国家試験・資格試験合格率および卒業免許取得率	18
表9 卒業判定	19
表10 就職・進学状況	20
表11 学科の退学者・休学者数	21
4. 入試	
表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移	22
表13 学科の入学者の構成	24
5. 学生生活	
表14 学生相談室利用状況	25
表15 奨学金給付・貸与状況	26
表16 授業料免除状況	27
6. 研究	
表17 教員研究費	28
表18 科研費の採択状況	29

表19	教員研究室の状況	30
表20	専任教員の担当授業時間数	31
7.	社会活動	
表21	公開講座の開設状況	32
8.	大学運営	
1)	施設・設備	
表22	校地・校舎、講義室・演習室等の面積	33
表23	学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模	34
2)	図書館	
表24	図書資料の所蔵数	35
表25	学生閲覧室等の面積・座席数	36
表26	図書館利用状況	37
3)	財務	
表27	歳入・歳出決算表	38
4)	管理運営	
表28	教授会開催状況	39
9.	専任教員の活動実績	41

2019年度三重短期大学年報刊行にあたって

本学における全学的な自己点検評価は、7年毎の認証評価とその中間時点にあたる3年ないし4年ごとに実施しており、自己点検評価報告書としてとりまとめています。2010年度には、大学評価・学位授与機構による認証評価を受審する際に提出し、その結果、適格の判定を与えられました。また、2013年度には中間的な自己点検評価報告書を作成して学内外に公表しました。2017年度には大学基準協会による短期大学認証評価を受審する際に提出し、「評価の結果、貴短期大学は本協会の短期大学基準に適合していると認定する。」との評価結果を受けました。

自己点検評価を実施するにあたっては、その基礎資料として、毎年、専任教員の研究教育業績調査を実施し、さらに自己点検評価実施に必要な定型的なデータを収集しています。また、これらの基礎データについては、2011年度分から「三重短期大学年報」としてとりまとめ、本学ホームページ上に公開して、広く本学の状況について発信しています。（原則11月～12月に公開）

「三重短期大学年報」は、基礎的データの掲載が主な内容です。職階別の年齢構成・男女比などの教員データ、受験者数・合格者数などの入試データや、在籍学生数・卒業者数・休退学者数・進路状況などの学生データ、施設・設備・短大財政などの管理データ、それに専任教員の教育・研究・地域貢献活動の状況などから構成することとし、当該年度の本学の状況を数値面から把握できるように、大項目ごとに章立てして構成してあります。また、全体的な概要を冒頭に記載してあります。ただし、あくまでも特徴的な変化を把握するもので、個々の評価には踏み込んでおりません。

今後とも、継続的に本学の情報を公開していく中で、自己点検評価に必要な外部からの意見・提言をお寄せいただきまよう関係各方面にお願いいたします。

2020年10月

三重短期大学評価委員会

2019年度三重短期大学の概況

1. 本学の理念・目的・教育目標について

- ・2008年3月に本学の理念と教育目標を制定し、各学科・専攻では、それぞれの教育目標に即して求める学生像をアドミッション・ポリシーとして明確化した。以後、2014年度には、新たにディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを定めてHP上に公開し、2016年度には、これら3つのポリシーの体系的見直しを行っている。

2. 本学の組織について

- ・学科・専攻・コース構成については2007年度以降継続している。
- ・専任教員は、助教以上が法経科12名、生活科学科16名の計28名で、教員1名当たりの在籍学生数は平均26名である。
- ・教員の年齢構成は、35歳以下が4名、45歳以下が11名、55歳以下が8名、65歳以下が5名であり、前年度に比べて、56歳以上65歳以下の教員の割合が減少している。
- ・教員の職階構成は、教授11名、准教授10名、講師4名、助教3名となっている。
- ・事務職員は、常勤職員が15名、非常勤職員等が14名となっており、常勤職員と非常勤職員等の人数は昨年度と変わらない。

3. 教育課程の状況

- ・両学科の開設授業科目のうち専門教育科目における専任教員の担当比率は、生活科学専攻では46%とやや低いものの、法経科第1部が48%、法経科第2部が52%、食物栄養学専攻が59%あり、約半数が専任教員により担当されている。昨年度との比較では、食物栄養学専攻が5%増加している。
- ・在籍学生数は、法経科第1部、食物栄養学専攻、生活科学専攻ではいずれも定員を充足している。法経科第2部は、在籍数が定員を充足していない状況が続いている。
- ・卒業判定の合格率は、昨年度の91.1%から89.5%へと若干減少しており、特に、法経科第1部の合格率が95.9%から89.9%へと、6%減少している。
- ・留年率は、3.8%であり、昨年度より約3%減少している。
- ・退学・休学状況では、退学率は、一昨年度が2.3%、昨年度が2.8%、そして今年度が3.5%であり、ここ数年増加傾向にある。また、休学者数は6名おり昨年度より3名増加している。
- ・国家試験・資格試験の合格状況では、栄養士免許取得者が昨年度の42名から56名へと増加し、合格率も昨年度より約9%増加した。管理栄養士免許取得者は、昨年度の6名から7名へと増加している。なお、教員免許課程は、2019年度までに中学社会科二種、中学家庭科二種、栄養教諭二種のすべてが廃止された。
- ・卒業後の進路状況では、就職者数は、昨年度より法経科第2部は減少したものの、法経科第1部、食物栄養学専攻、生活科学専攻では増加している。進学者数は、他大学への編入に関してみると、法経科第1部では昨年度より12名増加し、法経科第2部でも4名増加しているが、食物栄養学専攻と生活科学専攻では若干減少している。

4. 入試の状況

- ・定員充足率は、過去5年間の平均では、法経科第2部を除いて100%を越えている。
- ・入学定員に対する志願者の割合は、全学的にみると昨年度の1.95倍から1.84倍へと若干減少した。学科・専攻別では、法経科第1部・第2部と生活科学専攻は、過去5年間増減を繰り返しているが、食物栄養学専攻は近年減少傾向にあり、2019年度入試の115名から約30名減少している。
- ・入試種別の入学者構成は、一般入試が33.4%（昨年度35.6%）、推薦入試が34.0%（33.4%）、センター利用入試が26.3%（28.8%）、社会人特別選抜が4.0%（1.1%）、関連分野特別選抜が2.3%（1.1%）となっており、昨年度とほぼ同じ割合である。

5. 学生生活の状況

- ・学生相談室は、臨床心理士によりカウンセリングが行われている。利用状況では、年間開室日数は計45日あり、昨年度とほぼ同じであったが、相談件数は82件あり、昨年度より33件も増加している。
- ・奨学金給付・貸与状況は、在籍学生740名の44.9%（昨年度37.5%）に当たる332名が受給しており、昨年度より約67名増加している。受給学生はここ数年増加傾向にある。一人当たりの平均受給額は年間約56万円であり、ほとんどが日本学生支援機構奨学金の貸与である。
- ・授業料の減免は、半期ごとに認定されるが、2019年度前・後期合計で138件の申請に対して、全額免除62件、半額免除58件、合計120件が認定され、昨年度より13件増加している。

6. 専任教員の研究環境

- ・教員の研究費総額は1,516万円である。法経科は昨年度より約37万円増加したが、生活科学科は約88万円減少している。学内外を合わせた教員1人当たりの平均研究費（経常研究費）は法経科で36.5万円、生活科学科で31.5万円である。このうち、研究費総額に対する設置者の支出によって手当てされる分（学内経常研究費）の割合は、法経科が60%、生活科学科が27%である。
- ・科学研究費の採択状況は、2019年度は2件申請があり、いずれも採択された（採択率100%）。
- ・教員研究室の個室率は、法経科が117%であるのに対し、生活科学科は94%である。共同研究室も含めた研究室の平均面積は法経科で26.1㎡、生活科学科で25.9㎡である。
- ・助教を除く専任教員の一週間あたりの担当授業時間数は、法経科は平均11.0授業時間であり、生活科学科では平均9.9授業時間である。

7. 社会活動

- ・本学が提供している公開講座としては、オープンカレッジ、地域連携講座、出前講義がある。2019年度は合計36講座が開講され、1,502名の受講者があった。開講数は昨年度とほぼ同数であったが、参加者数は約650名も大幅に減少した。また、1講座当たりの平均受講者数も、昨年度の57名から42名へと15名減少した。

8. 大学運営

- ・校地・校舎、講義室・演習室等の面積の増減はない。講義室の学生1人当たりの面積は1.52㎡

であり、昨年度よりわずかに減少した。

- ・図書館の収蔵冊数は101,227冊で、2019年度中に1,704冊増加した。また、図書館の利用者数は3,439名、貸出冊数は6,127冊で、利用者数は昨年度より約280名増加したが、貸出冊数はほぼ変わりなかった。
- ・大学財政についてみると、歳入合計は6億1,171万円で、そのうち授業料・入学金が2億8,396万円、一般財源が2億4,432万円となっている。歳出の内訳は、一般職給が4億1,718万円、大学管理運営事業費9,319万円、施設維持補修事業費7,530万円、図書館管理運営事業費1,282万円、教育研究関係事業費1,152万円が主なものである。
- ・教授会は定例・臨時を含めて21回開催され、大学運営上の諸課題の審議・決定に当たった。

9. 専任教員の活動状況

- ・専任教員の活動状況については、「三重短期大学教員研究・教育業績」として、教員ごとに研究・教育・社会的活動の状況を掲載した。

1. 三重短期大学の理念と目的・教育目標

(1) 三重短期大学の理念

三重短期大学は、知の創造と継承を理念として、真理の探究とそれに基づく教育により優れた人材を育成するとともに、地域における知の拠点として、広く市民と連携し、協働することを通じて、地域の文化の向上及び豊かな地域社会の実現に寄与する。

1) 教育研究の理念

- ・真理の探究（知の創造・継承・発展）

教育・研究活動を通じて、人類普遍の真理と真実を追究し、世界の平和と人類の福祉の向上、文化の批判的継承と創造に貢献する。

- ・優れた人材の育成

広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え、応用力や実践力に富む有為な人材を育成する。

高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。

2) 地域貢献の理念

津市の設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え、生涯学習の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する。

3) 大学運営の理念

真理の探究と知の創造にかかわる、自律性と自発性に基づく教育研究活動を尊重し、促進する。

大学の自治とは、大学がいかなる利害からも自由に知の創造と発展を行うことを通じて広く人類社会に貢献することができるよう、国民から特に付託されたものであることを常に自覚し、教育研究及び管理運営に関して、主体的に点検と評価を進めるとともに、他者からの批判的評価を積極的に求め、その付託に伴う責務を自立的に果たすべく努める。

(2) 三重短期大学の目的

学則に三重短期大学の目的は次のように定めている。

三重短期大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）にのっとり、広く教養を与えるとともに、深く専門の学術技能を教授研究し、有為の人材を育成して文化の進展に寄与することを目的とする。

(3) 三重短期大学の教育目標

三重短期大学は、広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え応用力や実践力の富む有為な人材の育成を行う。

- ・創造性豊かな人間性と優れた専門性を備えた人材の育成

文化・社会・人間・自然に関する人類の知的遺産を学び理解するとともに、基本的な知的思考能力を育成する。

- ・実社会で活躍できる知的・人間的資質を備えた人材の育成

総合的に考える能力、科学的な思考法、適切な自己表現能力、自主的な課題発見・解決能力など応用力や実践力を育成する。

- ・地域社会を主体的に担う市民の育成

高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。

- ・国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力の養成

グローバルな視野と国際感覚を身につけるとともに、コミュニケーション能力や情報社会に対応できる ICT（Information & Communication Technology）活用能力を育成する。

(4) 学科・専攻の目的

法経科第1部

法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する専門的な知識を身につけ、もって地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

法経科第2部

法律・政治・経済・経営など社会科学に関する幅広い教養を身につけ、自らの人生を豊かにするとともに、地域社会に貢献できる市民を育成することを目的とする。

生活科学科

生活者の視点から生活環境の改善や健康、福祉に対する深い造詣をもち、地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

生活科学科食物栄養学専攻

食と健康に関する専門知識と技能を備え、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成することを目的とする。

生活科学科生活科学専攻

地域社会の人々が豊かで幸福な生活が営めるように、福祉学や心理学ならびに居住環境の観点から地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(5) 学科・専攻の教育目標

法経科第1部

- ・法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識の修得の上に、最新の学問的到達について一定の理解をもった人材を育成する。
- ・机上の学問にとどまらず、修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することのできる人材を育成する。
- ・社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけ、地域社会に貢献しうる見識ある職業人・市民の育成をめざす。

法経科第2部

- ・社会科学についての基本的な素養を身につけた市民の育成をめざす。
- ・「学ぶことで自らの人生をより豊かなものにしたい」という願いを支援する。
- ・社会のみならず文化や自然についての幅広い教養の上に、広い視野と寛容さを身につけた、地域社会に貢献しうる見識ある市民の育成をめざす。

生活科学科食物栄養学専攻

- ・食を通じた豊かな人間形成と、食に関する知識と技能を融和させて実践することができる専門性の高い教育を行う。
- ・科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解や対処ができる栄養士や栄養教諭などの食のスペシャリストを育成する。
- ・個人の食や健康問題に対応した栄養教育を実践できる能力を養い、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成する。

生活科学科生活科学専攻生活福祉・心理コース

- ・社会福祉学や心理学を中心に「理論」と「実践」を学び、現場で生きる知識と技術を備えた人材を育成する。
- ・学生の持つ個性や能力を最大限に引き出し、豊かな人間関係を築くことができる人材を育成する。
- ・人々や地域が抱える様々な課題を広い視野で総合的に考察・分析した上で、地域における生活者の一員として主体的に行動できる人材を育成する。

生活科学科生活科学専攻居住環境コース

- ・住まいやまちの環境を快適にする力を育成する。
- ・環境問題を認識し、環境共生のために住まいとまちの持ち味を生かす力を育成する。
- ・住まい・まちと福祉をつなぐ力を育成する。
- ・住まいとまちをつくる専門的な力を育成する。

表1 設置学科・専攻等

	学 科	部・専 攻	コ ー ス
三重短期大学	法経科	第1部<1969年4月>	法律コース<2007年4月>
		第2部<1952年4月>	経商コース<2007年4月>
	生活科学科	食物栄養学専攻<1969年4月>	
		生活科学専攻<1991年4月>	生活福祉・心理コース<2007年4月> 居住環境コース<2007年4月>

表2 全学の教員組織（2019年度）

学科・部・専攻		専任教員数					助手	設置基準上 必要専任 教員数	専任教員1人あた りの在籍学生数 (表7の在籍数/A)	兼任教員数					兼任 教員数
		教授	准教授	講師	助教	計(A)				教授	准教授	講師	助教	計	
法経科	第1部	5	4	3		12		3	34.33	4	2	2		8	49
	第2部														
生活科学科	食物栄養学専攻	2	2	1	3	8		4	13.25	1				1	43
	生活科学専攻	4	4			8		4	27.75	4	2			6	61
合 計		11	10	4	3	28		18		9	4	1		15	186
短期大学全体の入学定員に応じ定める専任教員数								5							

[注] 1 専任とは、常勤する者をいい、兼任とは、学外からの兼務者を示す。

2 同一の兼任教員が複数の学科を担当する場合、重複して記載している。

3 2019年5月1日時点の状況を示す。

表3 専任教員個別表 (2019年度)

法経科

職名	氏名	性別	就職年月日	現職就任年月日	所属	授業科目								最終学歴及び学位称号	
						毎週授業時間数									
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
教授	タテシ ヨシオ 立石 芳夫	男	1999/10/1	2009/4/1	法経科法律コース	行政学	4.0						4.0	0.0	立命館大学大学院法学研究科法学修士
						行政学(法2)	4.0						4.0	0.0	
						地方政治論		4.0					0.0	4.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						法学入門	0.4						0.4	0.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
計	8.4	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.4	8.0							
教授	ムライ ミヨ子 村井 美代子	女	2003/4/1	2011/4/1	法経科	英語Ⅰ(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0	大阪大学大学院文学研究科文学博士
						英語講読	2.0	2.0					2.0	2.0	
						英語講読(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0	
						計	6.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	6.0	
教授	タスモト タカシ 楠本 孝	男	2004/4/1	2012/4/1	法経科法律コース	刑法	4.0						4.0	0.0	中央大学大学院法学研究科法学修士
						刑法(法2)	4.0						4.0	0.0	
						刑事政策		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						法学入門	0.4						0.4	0.0	
						農林体験セミナー	2.0						2.0	0.0	
						食と観光実践	2.0						2.0	0.0	
						医療・健康・福祉実践	2.0						2.0	0.0	
						次世代産業実践		2.0					0.0	2.0	
計	14.4	4.0	4.0	6.0	0.0	0.0	18.4	10.0							
教授	イシハラ ヨウスケ 石原 洋介	男	2006/4/1	2014/4/1	法経科経商コース	金融論		4.0					0.0	4.0	一橋大学大学院経済学研究科経済学修士
						金融論(法2)	4.0						4.0	0.0	
						国際経済論	2.0						2.0	0.0	
						キャリア形成セミナー	2.0						2.0	0.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
経済学入門	0.4						0.4	0.0							
計	8.4	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.4	8.0							
教授	フジエダ リツ子 藤枝 律子	女	2010/4/1	2018/4/1	法経科法律コース	行政法	4.0						4.0	0.0	名古屋大学大学院法学研究科修士(法学)
						行政法(法2)	4.0						4.0	0.0	
						地方自治法		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0	
法学入門	0.4						0.4	0.0							
計	8.4	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.4	8.0							
准教授	タナカ サトミ 田中 里美	女	2012/4/1	2015/4/1	法経科経商コース	会計学	4.0						4.0	0.0	明治大学大学院商学研究科博士(商学)
						会計学(法2)		4.0					0.0	4.0	
						税務会計論	2.0						2.0	0.0	
						上級簿記		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
経済学入門	0.4						0.4	0.0							
計	6.4	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.4	10.0							
准教授	オホハタ サトシ 大畑 智史	男	2016/4/1	2016/4/1	法経科経商コース	財政学		4.0					0.0	4.0	東北大学大学院経済学研究科経済学修士
						財政学(法2)		4.0					0.0	4.0	
						地方財政論	2.0						2.0	0.0	
						地方財政論(法2)	2.0						2.0	0.0	
						経済学入門	0.4						0.4	0.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0							
計	4.4	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	8.4	12.0							
准教授	イマモト コウヘイ 今本 幸平	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科	文学Ⅰ	2.0						2.0	0.0	関西大学大学院文学研究科博士(文学)
						文学Ⅰ(法2)	2.0						2.0	0.0	
						文学Ⅱ		2.0					0.0	2.0	
						文学Ⅱ(法2)		2.0					0.0	2.0	
						独語Ⅰ	2.0	2.0					2.0	2.0	
						独語Ⅰ(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0	
独語Ⅱ	2.0	2.0					2.0	2.0							
計	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0							
准教授	タノベ アツシ 田添 篤史	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科経商コース	経済原論	4.0						4.0	0.0	京都大学大学院経済学研究科博士(経済学)
						経済原論(法2)	4.0						4.0	0.0	
						経済学史		2.0					0.0	2.0	
						統計学(法2)		2.0					0.0	2.0	
						経済学入門	0.4						0.4	0.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0							
計	8.4	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.4	8.0							

職名	氏名	性別	就職年月日	現職就任年月日	所属	授業科目								最終学歴及び学位称号		
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期		後期	
講師	フシオ カズリ 鷺尾 和紀	男	2017/4/1	2017/4/1	法経科 経商 コース	マーケティング論	4.0						4.0	0.0	高千穂大学大学院 経営学研究科 博士（経営学）	
						マーケティング論（法2）		4.0				0.0	4.0			
						日本経済論		2.0				0.0	2.0			
						日本経済論（法2）	2.0					2.0	0.0			
						経済学入門	0.4					0.4	0.0			
						演習			2.0	2.0		2.0	2.0			
						社会科学演習			2.0	2.0		2.0	2.0			
計	6.4	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.4	10.0								
講師	カワカミ イクマ 川上 生馬	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科 法律 コース	民法Ⅰ	4.0						4.0	0.0	関西学院大学大学院 法学研究科 修士（法学）	
						民法Ⅰ（法2）	4.0					4.0	0.0			
						民法Ⅲ		2.0				0.0	2.0			
						演習			2.0	2.0		2.0	2.0			
						社会科学演習			2.0	2.0		2.0	2.0			
						法学基礎演習				2.0		0.0	2.0			
						法学入門	0.4					0.4	0.0			
計	8.4	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.4	8.0								
講師	カマツカ ユキ 鎌塚 有貴	女	2018/10/1	2018/10/1	法経科 法律 コース	日本国憲法・日本国憲法Ⅰ	2.0						2.0	0.0	明治大学大学院 法学研究科 修士（法学）	
						日本国憲法・日本国憲法Ⅱ		2.0				0.0	2.0			
						日本国憲法（法2）		4.0				0.0	4.0			
						憲法訴訟論		2.0				0.0	2.0			
						法学入門	0.4					0.4	0.0			
						演習			2.0	2.0		2.0	2.0			
						社会科学演習			2.0	2.0		2.0	2.0			
法学基礎演習				2.0		0.0	2.0									
計	2.4	8.0	4.0	6.0	0.0	0.0	6.4	14.0								

生活科学科

職名	氏名	性別	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	所属	授 業 科 目								最終学歴及び 学位称号	
						毎週授業時間数									
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計		
前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期							
教授	ミナモト 南 有哲	男	1999/4/1	2007/4/1	居住環 境コース	環境論	2.0						2.0	0.0	京都大学大学院 経済学研究科 経済学修士
						環境論(法2)	2.0					2.0	0.0		
						居住環境特別演習			4.0	4.0		4.0	4.0		
						環境政策論		2.0				0.0	2.0		
						環境政策論(法2)		2.0				0.0	2.0		
						環境倫理学	2.0					2.0	0.0		
						生活と環境	2.0					2.0	0.0		
						地域政策論(法2)		2.0				0.0	2.0		
						生活科学概論	0.1					0.1	0.0		
計	8.1	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.1	10.0							
教授	ナガトミ 長友 薫輝	男	2004/4/1	2013/4/1	生活福 祉・心 理コース	社会福祉論・社会福祉論Ⅰ	2.0						2.0	0.0	龍谷大学大学院 社会学研究科 社会福祉学修士
						社会福祉論Ⅰ・社会福祉論Ⅱ	2.0					2.0	0.0		
						社会福祉論Ⅱ		2.0				0.0	2.0		
						地域福祉論Ⅱ		2.0				0.0	2.0		
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	2.0					2.0	0.0		
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ					1.0	1.0	0.0		
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ						1.0	0.0		
						福祉心理基礎演習				2.0		0.0	2.0		
						福祉心理演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
						生活科学概論	0.1					0.1	0.0		
計	6.1	4.0	2.0	4.0	1.0	1.0	9.1	9.0							
教授	キノシタ 木下 誠一	男	2009/4/1	2015/4/1	居住環 境コース	居住福祉論		2.0					0.0	2.0	三重大学大学院 工学研究科 博士(工学)
						居住計画論	2.0					2.0	0.0		
						住生活論		2.0				0.0	2.0		
						住生活設計Ⅰ					4.0	0.0	4.0		
						住生活設計Ⅱ					4.0	4.0	0.0		
						居住環境特別演習			4.0	4.0		4.0	4.0		
						生活科学概論	0.1					0.1	0.0		
						計	2.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	10.1	12.0	
教授	ヤマダ 山田 徳広	男	2015/4/1	2015/4/1	食物栄 養学専 攻	生化学	2.0						2.0	0.0	東京農業大学 大学院農学研究科 生物環境調整学 博士
						生化学実験					3.0		3.0	0.0	
						ライフステージ栄養学	2.0						2.0	0.0	
						管理栄養特殊講義		0.2					0.0	0.2	
						食生活論		2.0					0.0	2.0	
						栄養学		2.0					0.0	2.0	
						栄養学実験					3.0		0.0	3.0	
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
						生活科学概論	0.6						0.6	0.0	
						計	4.6	4.2	4.0	4.0	3.0	3.0	11.6	11.2	
教授	ハンコ 橋本 ヒロキ	男	2018/4/1	2018/4/1	食物栄 養学専 攻	食品学	2.0				3.0		2.0	0.0	愛媛大学大学院 連合農学研究科 農学博士
						食品学実験						3.0	0.0	0.0	
						食品衛生学Ⅰ	2.0						2.0	0.0	
						食品衛生学Ⅱ		2.0					0.0	2.0	
						食品の機能		2.0					0.0	2.0	
						食品衛生学実験						3.0	0.0	3.0	
						管理栄養特殊講義		0.2					0.0	0.2	
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
						計	4.1	4.2	4.0	4.0	3.0	3.0	11.1	11.2	
教授	オノデラ 小野寺 カズシゲ	男	2014/4/1	2014/4/1	居住環 境コース	都市計画論		2.0					0.0	2.0	東洋大学大学院 工学研究科 博士(国際地域 学)
						地域政策論	2.0						2.0	0.0	
						住環境計画	2.0						2.0	0.0	
						地域環境学		2.0					0.0	2.0	
						自治体行政特論	2.0						2.0	0.0	
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
						まちづくり設計Ⅰ					2.0		2.0	0.0	
						まちづくり設計Ⅱ						2.0	0.0	2.0	
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
						計	6.1	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0	12.1	10.0	
准教授	アベ 阿部 稚里	女	2006/4/1	2008/4/1	食物栄 養学専 攻	栄養教育論Ⅰ	2.0						2.0	0.0	椋山女学園大学 大学院生活科学 研究科 博士(人間生活 科学)
						栄養教育論実習Ⅰ					3.0		3.0	0.0	
						特別演習							0.0	0.0	
						栄養教育論Ⅱ							0.0	0.0	
						栄養教育論実習Ⅱ							0.0	0.0	
						管理栄養特殊講義							0.0	0.0	
						教職実践演習(栄養)							0.0	0.0	
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
計	2.1	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	5.1	0.0							
准教授	キタムラ 北村 カツ子	女	2007/4/1	2010/4/1	生活福 祉・心 理コース	社会福祉発達史	2.0						2.0	0.0	龍谷大学大学院 社会学研究科 社会福祉学修士
						障害者福祉論	2.0						2.0	0.0	
						社会福祉援助技術演習Ⅰ		4.0					0.0	4.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ						1.0	0.0	1.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ					1.0		1.0	0.0	
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ		3.0					0.0	3.0	
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
計	4.1	7.0	2.0	4.0	1.0	1.0	7.1	12.0							
准教授	タケダ 武田 ノブコ	男	2013/10/1	2013/10/1	生活福 祉・心 理コース	医療福祉論	2.0						2.0	0.0	新潟大学大学院 歯学総合研究 科医科学専攻 修士(社会福祉 学)
						社会福祉援助技術論Ⅰ		4.0					0.0	4.0	
						社会福祉援助技術総論	4.0						4.0	0.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ						1.0	0.0	1.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ						1.0	1.0	0.0	
生活科学概論	0.1						0.1	0.0							
計	6.1	4.0	2.0	4.0	1.0	1.0	9.1	9.0							

職名	氏名	性別	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	所属	授 業 科 目										最終学歴及び 学位称号
						毎週授業時間数										
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期								
准教授	コマダ アイ 駒田 亜衣	女	2007/8/1	2014/4/1	食物栄養学専攻	給食計画実務論		2.0						0.0	2.0	青森県立保健大学大学院健康科学研究科 博士（健康科学）
						調理学	2.0						2.0	0.0		
						給食計画実務論実習Ⅰ					3.0		3.0	0.0		
						給食計画実務論実習Ⅱ					1.0	1.0	1.0	1.0		
						校外実習事前事後指導					1.0	1.0	1.0	1.0		
						調理学実習Ⅱ						3.0	0.0	3.0		
						管理栄養特殊講義		0.8					0.0	0.8		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
准教授	リュウ コウイチロウ 笠 浩一朗	男	2015/4/1	2015/4/1	居住環境コース	情報と社会	2.0							2.0	0.0	名古屋大学大学院情報科学研究科 博士（情報科学）
						情報と科学		2.0						0.0	2.0	
						情報と社会（法2）		2.0						0.0	2.0	
						数理解科学	2.0						2.0	0.0		
						情報処理実習Ⅱ						4.0	0.0	4.0		
						情報処理実習Ⅰ（法2）					2.0		2.0	0.0		
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0		
准教授	カハシ タカ 高橋 彩	女	2019/4/1	2019/4/1	福祉心理コース	心理学概論	2.0						2.0	0.0	愛知学院大学大学院総合政策研究科 博士（総合政策）	
						発達心理学	2.0						2.0	0.0		
						心理学基礎実験					4.0		4.0	0.0		
						発達と学習		2.0					0.0	2.0		
						心理学		2.0					0.0	2.0		
						心理学研究法						2.0	0.0	2.0		
						心理学（法2）		2.0					0.0	2.0		
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0								
講師	アヅカ ムツキ 相川 悠貴	男	2017/10/1	2017/10/1	食物栄養学専攻	健康管理概論	2.0						2.0	0.0	筑波大学大学院人間総合科学研究科 博士（体育科学）	
						解剖生理学	2.0						2.0	0.0		
						解剖生理学実験						3.0	0.0	3.0		
						運動保健学		2.0					0.0	2.0		
						給食計画実務論実習Ⅱ					1.0	1.0	1.0	1.0		
						校外実習事前事後指導					1.0	1.0	1.0	1.0		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						管理栄養特殊講義		0.2					0.0	0.2		
生活科学概論	0.1						0.1	0.0								
助教	アイダ ツキミ 飯田 津喜美	女	1990/4/1	2008/4/1	食物栄養学専攻	計	4.1	2.2	4.0	4.0	2.0	5.0	10.1	11.2	三重短期大学家政科食物栄養学専攻	
						管理栄養特殊講義		0.2					0.0	0.2		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0		
助教	スギノ カエ 杉野 香江	女	2017/4/1	2017/4/1	食物栄養学専攻	計	0.1	0.2	4.0	4.0	0.0	0.0	4.1	4.2	鈴鹿医療科学大学保健衛生学研究科 医療栄養学修士	
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						管理栄養特殊講義		0.2					0.0	0.2		
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0		
助教	ハツリ トモミ 服部 知美	女	2019/4/1	2019/4/1	食物栄養学専攻	計	0.1	0.2	4.0	4.0	0.0	0.0	4.1	4.2	鈴鹿医療科学大学保健衛生学研究科 医療科学修士	
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						管理栄養特殊講義		0.2					0.0	0.2		
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0		

[注] 1 1 授業科目を複数の教員で担当する場合、当該授業時間数を担当者数で割り毎週授業時間数を算出した。
2 2019年5月1日時点の状況を示す。

表4 専任教員年齢構成 (2019年度)

学科	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
法経科	教授	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	4 100.0%
	講師	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	3 100.0%
	助教	0 0.0%								
合計		1 8.3%	2 16.7%	1 8.3%	1 8.3%	2 16.7%	2 16.7%	2 16.7%	1 8.3%	12 100.0%
定年 65歳										

学科	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
生活科学科	教授	0 0.0%	2 33.3%	3 50.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	4 66.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
	講師	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
合計		0 0.0%	2 12.5%	4 25.0%	2 12.5%	5 31.3%	2 12.5%	1 6.3%	0 0.0%	16 100.0%
定年 65歳										

学科	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
全学科	教授	1 9.1%	4 36.4%	4 36.4%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	6 60.0%	2 20.0%	1 10.0%	0 0.0%	10 100.0%
	講師	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	4 100.0%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
合計		1 3.6%	4 14.3%	5 17.9%	3 10.7%	7 25.0%	4 14.3%	3 10.7%	1 3.6%	28 100.0%
定年 65歳										

[注] 2019年5月1日時点の状況を示す。

表5 事務組織（2019年度）

	部署名	担当名	専任職員		兼務職員	常勤嘱託員	臨時職員	その他	計
				うち管理職					
短期大学業務系	短期大学事務局		1	1					1
	学生部	教務学生担当	6	2(1)	1		3		9
	大学総務課	総務担当	5	2			8	1	14
		地域連携センター			3(1)				
	附属図書館	図書担当	3	2(1)			2		5
合計			15	7(2)	4(1)	0	13	1	29

[注] 1 () 内数字は、教員が管理職を担当している数を示す。

2 計には兼務職員を含まない。

表6 学科の開設授業科目における専兼比率

[2017年度]

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	28.5	29.5
			兼任担当科目数 (B)	0	28.5	28.5
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	50.00	50.86
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	11.84	13.59
			兼任担当科目数 (B)	4.25	20.16	24.41
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	29.17	37.00	35.76
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	18	19
			兼任担当科目数 (B)	0	19	19
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	48.65	50.00
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.5	12.5	14
			兼任担当科目数 (B)	2.5	19.5	22
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	37.50	39.06	38.89
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	5	26	31
			兼任担当科目数 (B)	2	26	28
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	71.43	50.00	52.54
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	11.84	13.59
			兼任担当科目数 (B)	3.25	20.16	23.41
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	37.00	36.73
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2	31	33
			兼任担当科目数 (B)	0	50	50
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	38.27	39.76
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	11.84	13.59
			兼任担当科目数 (B)	3.25	20.16	23.41
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	37.00	36.73

[2018年度]

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	0.83	25.5	26.33
			兼任担当科目数 (B)	0.17	29.5	29.67
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	83.00	46.36	47.02
		教養教育	専任担当科目数 (A)	2.75	13.75	16.5
			兼任担当科目数 (B)	3.25	20.25	23.5
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	45.83	40.44	41.25
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	0.89	18	18.89
			兼任担当科目数 (B)	0.11	17	17.11
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	89.00	51.43	52.47
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.5	14.5	16
			兼任担当科目数 (B)	2.5	19.5	22
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	37.50	42.65	42.11
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	5	28	33
			兼任担当科目数 (B)	2	26	28
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	71.43	51.85	54.10
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	13.75	15.5
			兼任担当科目数 (B)	3.25	20.25	23.5
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	40.44	39.74
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2	33	35
			兼任担当科目数 (B)	0	48	48
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	40.74	42.17
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	13.75	15.5
			兼任担当科目数 (B)	3.25	20.25	23.5
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	40.44	39.74

[2019年度]

学 科 ・ 部 ・ 専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	0.91	26.00	26.91
			兼任担当科目数 (B)	0.09	29.00	29.09
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	91.00	47.27	48.05
		教養教育	専任担当科目数 (A)	2.50	16.25	18.75
			兼任担当科目数 (B)	3.50	18.75	22.25
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	41.67	46.43	45.73
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	0.91	18.00	18.91
			兼任担当科目数 (B)	0.09	17.00	17.09
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	91.00	51.43	52.53
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	16.00	17.50
			兼任担当科目数 (B)	2.50	19.00	21.50
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	37.50	45.71	44.87
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	6.00	30.00	36.00
			兼任担当科目数 (B)	1.00	24.00	25.00
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	85.71	55.56	59.02
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	16.25	17.75
			兼任担当科目数 (B)	3.50	18.75	22.25
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	30.00	46.43	44.38
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2.00	36.00	38.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	44.00	44.00
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	45.00	46.34
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	16.25	17.75
			兼任担当科目数 (B)	3.50	18.75	22.25
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	30.00	46.43	44.38

- [注] 1 「全開設授業科目」とは、必須科目と選択必須科目をあわせたものである。
 2 専任担当科目数には、他学科の専任教員による兼任科目も含む。

表7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数

[2017年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次	2年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	202	1.01	98	104	6	5.77	
	第2部	150	300	180	0.60	85	95	16	16.84	
計		250	500	382	0.76	183	199	22	11.06	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	99	0.99	48	51	0	0.00	
	生活科学専攻	100	200	207	1.04	95	112	4	3.57	
計		150	300	306	1.02	143	163	4	2.45	
合計		400	800	688	0.86	326	362	26	7.18	

2017年5月1日現在

[2018年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次	2年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	222	1.11	125	97	4	4.12	
	第2部	150	300	169	0.56	76	93	16	17.20	
計		250	500	391	0.78	201	190	20	10.53	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	105	1.05	57	48	0	0.00	
	生活科学専攻	100	200	211	1.06	113	98	4	4.08	
計		150	300	316	1.05	170	146	4	2.74	
合計		400	800	707	0.88	371	336	24	7.14	

2018年5月1日現在

[2019年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次	2年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	238	1.19	109	129	3	2.33	
	第2部	150	300	174	0.58	96	78	9	11.54	
計		250	500	412	0.82	205	207	12	5.80	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	106	1.06	49	57	1	1.75	
	生活科学専攻	100	200	222	1.11	113	109	1	0.92	
計		150	300	328	1.09	162	166	2	1.20	
合計		400	800	740	0.93	367	373	14	3.75	

2019年5月1日現在

[注] 1 2年次学生数のうち、留年者数は、前年度の卒業判定不合格者から退学者等を引いた数。

表8 国家試験・資格試験合格率および卒業免許取得率

[2017年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	33	14	42.4
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士	6	2	33.3
【卒業免許】				
法経科第1部	中学校教諭(社会科)二種免許	0	0	
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	51	48	94.1
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	4	4	100.0
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭(家庭科)二種免許	5	5	100.0

[2018年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	31	6	19.4
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士	9	3	33.3
【卒業免許】				
法経科第1部	中学校教諭(社会科)二種免許			
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	47	42	89.4
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	3	3	100.0
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭(家庭科)二種免許			

[2019年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	30	7	23.3
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士	12	2	16.7
【卒業免許】				
法経科第1部	中学校教諭(社会科)二種免許			
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	57	56	98.2
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許			
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭(家庭科)二種免許			

[注] 1 受験者数、合格者数が把握できない場合は、空欄とした。

表9 卒業判定

学科・部・専攻		2017年度			2018年度			2019年度		
		卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A
法経科	第1部	104	96	92.3	97	93	95.9	129	116	89.9
	第2部	95	65	68.4	93	76	81.7	78	60	76.9
計		199	161	80.9	190	169	88.9	207	176	85.0
生活科学科	食物栄養学専攻	51	51	100.0	48	46	95.8	57	57	100.0
	生活科学専攻	112	107	95.5	98	91	92.9	109	101	92.7
計		163	158	96.9	146	137	93.8	166	158	95.2
合計		362	319	88.1	336	306	91.1	373	334	89.5

[注] 1 卒業予定者数は、各年度とも5月1日現在

表10 就職・進学状況

学 科	部・専攻	進 路	2017年度	2018年度	2019年度	
法経科	第1部	就職	民間企業	59	52	65
			官公庁	8	15	7
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	15	13	25
			上記以外	2	1	3
			そ の 他	12	12	16
	合 計	96	93	116		
	第2部	就職	民間企業	25	28	21
			官公庁	0	4	1
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	13	11	15
			上記以外	2	0	4
			そ の 他	25	33	19
合 計	65	76	60			
法経科 計			161	169	176	
生活科学科	食物栄養学専攻	就職	民間企業	44	36	48
			官公庁	0	1	0
			上記以外	0	0	0
			(A)	(35)	(29)	(32)
		進学	他大学編入	1	6	4
			上記以外	2	1	3
	そ の 他	4	2	2		
	合 計	51	46	57		
	生活科学専攻	就職	民間企業	73	58	70
			官公庁	0	4	2
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	11	16	15
			上記以外	6	2	1
			そ の 他	17	11	13
	合 計	107	91	101		
生活科学科 計			158	137	158	

[注] 1 「その他」は、当該学科の各年度の卒業生（9月卒業を含む）のうち就職・進学のいずれもしないものの人数を示す。

「(A)」は、教職や栄養士等の有資格者として職業に就いた卒業生数を示す。

2 就職については、契約社員（契約が1年以上かつ30時間以上勤務の場合）も含む。

表11 学科の退学者・休学者数

【退学者】

学 科	部・専攻	2017年度				2018年度				2019年度			
		1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)
法経科	第1部	5	2(2)	7	3.5	1	0(0)	1	0.5	6	4(2)	10	4.2
	第2部	3	5(2)	8	4.4	4	6(3)	10	5.9	5	4(2)	9	5.2
計		8	7(4)	15	3.9	5	6(3)	11	2.8	11	8(4)	19	4.6
生活科学科	食物栄養学専攻	0	0(0)	0	0.0	1	1(0)	2	1.9	0	0(0)	0	0.0
	生活科学専攻	1	0(0)	1	0.5	5	2(0)	7	3.3	4	3(1)	7	3.2
計		1	0(0)	1	0.3	6	3(0)	9	2.8	4	3(1)	7	2.1
合 計		9	7(4)	16	2.3	11	9(3)	20	2.8	15	11(5)	26	3.5

【休学者】

学 科	部・専攻	2017年度			2018年度			2019年度		
		1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計
法経科	第1部	1	0(0)	1	0	0(0)	0	1	0(0)	1
	第2部	0	1(0)	1	2	1(0)	3	0	2(0)	2
計		1	1(0)	2	2	1(0)	3	1	2(0)	3
生活科学科	食物栄養学専攻	0	0(0)	0	0	0(0)	0	1	0(0)	1
	生活科学専攻	1	0(0)	1	0	0(0)	0	0	2(0)	2
計		1	0(0)	1	0	0(0)	0	1	2(0)	3
合 計		2	1(0)	3	2	1(0)	3	2	4(0)	6

- [注] 1 () 内の数字は3年次以上生の学生数を内数で示したもの。
 2 退学率については、各年度の5月1日現在の学生数に占める割合とする。
 3 休学者数は延べ人数で示した。

表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移

学科	部・専攻	入試の種類		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	過去5年間におけるA/Bの平均(%)
法 経 科	第 1 部	推薦入試	志願者	73	71	67	77	78	108.0%
			合格者	53	54	53	53	52	
			入学者	51	54	53	53	52	
			入学定員	50	50	50	50	50	
		一般入試	志願者	99	128	120	140	123	
			合格者	69	70	77	64	64	
			入学者	45	38	62	39	40	
			入学定員	40	40	40	40	40	
		センター利用入試	志願者	48	45	40	93	70	
			合格者	24	21	31	32	33	
			入学者	6	6	10	17	14	
			入学定員	10	10	10	10	10	
		第1部計	志願者	220	244	227	310	271	
			合格者	146	145	161	149	149	
			入学者(A)	102	98	125	109	106	
	入学定員(B)		100	100	100	100	100		
	A/B		1.02	0.98	1.25	1.09	1.06		
	第 2 部	推薦入試	志願者	25	25	34	35	35	57.3%
			合格者	23	22	28	30	26	
			入学者	16	11	12	13	12	
			入学定員	30	30	30	30	30	
		一般入試	志願者	23	38	28	33	33	
			合格者	19	29	23	25	25	
			入学者	19	26	21	24	21	
			入学定員	40	40	40	40	40	
		センター利用入試	志願者	49	51	54	90	79	
			合格者	46	50	53	79	68	
入学者			31	33	31	56	43		
入学定員			50	50	50	50	50		
社会人特別選抜		志願者	23	18	12	5	10		
		合格者	21	17	12	4	10		
		入学者	20	15	12	4	10		
	入学定員	30	30	30	30	30			
第2部計	志願者	120	132	128	163	157			
	合格者	109	118	116	138	129			
	入学者(A)	86	85	76	97	86			
	入学定員(B)	150	150	150	150	150			
	A/B	0.57	0.57	0.51	0.65	0.57			
学科 合計	志願者	340	376	355	473	428	77.6%		
	合格者	255	263	277	287	278			
	入学者(A)	188	183	201	206	192			
	入学定員(B)	250	250	250	250	250			
	A/B	0.75	0.73	0.80	0.82	0.77			

[注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。

学科	部・専攻	入試の種類		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	過去5年間におけるA/Bの平均(%)
生活科学科	食物栄養学専攻	推薦入試	志願者	52	29	38	39	28	101.6%
			合格者	21	21	23	22	25	
			入学者	21	21	23	22	25	
			入学定員	20	20	20	20	20	
		一般入試	志願者	81	47	75	44	40	
			合格者	42	39	45	39	40	
			入学者	27	21	29	22	21	
			入学定員	25	25	25	25	25	
		センター利用入試	志願者	11	14	21	32	15	
			合格者	7	13	14	21	15	
			入学者	3	6	5	5	3	
			入学定員	5	5	5	5	5	
		専攻計	志願者	144	90	134	115	83	
			合格者	70	73	82	82	80	
			入学者(A)	51	48	57	49	49	
	入学定員(B)		50	50	50	50	50		
	A/B		1.02	0.96	1.14	0.98	0.98		
	生活科学専攻	推薦入試	志願者	44	26	33	36	31	108.8%
			合格者	42	26	32	35	31	
			入学者	42	26	32	35	31	
			入学定員	45	45	45	45	45	
		一般入試	志願者	72	65	73	74	75	
			合格者	54	61	67	69	65	
			入学者	30	36	42	46	36	
			入学定員	30	30	30	30	30	
		センター利用入試	志願者	125	70	129	78	104	
			合格者	54	68	61	53	61	
入学者			31	27	31	28	33		
入学定員			20	20	20	20	20		
関連分野特別選抜		志願者	6	6	7	4	12		
		合格者	6	6	7	4	8		
		入学者	6	6	7	4	8		
		入学定員	5	5	5	5	5		
社会人特別選抜		志願者	3	1	1	1	5		
		合格者	2	0	1	1	4		
		入学者	2	0	1	0	4		
		入学定員	0	0	0	0	0		
専攻計	志願者	250	168	243	193	227			
	合格者	158	161	168	162	169			
	入学者(A)	111	95	113	113	112			
	入学定員(B)	100	100	100	100	100			
	A/B	1.11	0.95	1.13	1.13	1.12			
学科 合計	志願者	394	258	377	308	310	106.4%		
	合格者	228	234	250	244	249			
	入学者(A)	162	143	170	162	161			
	入学定員(B)	150	150	150	150	150			
	A/B	1.08	0.95	1.13	1.08	1.07			
短期大学合計	志願者	734	634	732	781	738	88.4%		
	合格者	483	497	527	531	527			
	入学者(A)	350	326	371	368	353			
	入学定員(B)	400	400	400	400	400			
	A/B	0.88	0.82	0.93	0.92	0.88			

[注] 2 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。

表13 学科の入学者の構成（2020年度）

学 科	部・専 攻		入 学 者 数					計	備 考
			一般入試	推薦入試	センター 利用入試	社会人特 別選抜	関連分野 特別選抜		
法経科	第1部	入学定員	40	50	10			100	
		入学者数	40	52	14			106	
		計に対する割合	37.7%	49.1%	13.2%			100.0%	
	第2部	入学定員	40	30	50	30		150	
		入学者数	21	12	43	10		86	
		計に対する割合	24.4%	14.0%	50.0%	11.6%		100.0%	
生活科 学科	食物栄養学専攻	入学定員	25	20	5			50	
		入学者数	21	25	3			49	
		計に対する割合	42.9%	51.0%	6.1%			100.0%	
	生活科学専攻	入学定員	30	45	20	0	5	100	
		入学者数	36	31	33	4	8	112	
		計に対する割合	32.1%	27.7%	29.5%	3.6%	7.1%	100.0%	
	計	入学定員	55	65	25	0	5	150	
		入学者数	57	56	36	4	8	161	
		計に対する割合	35.4%	34.8%	22.4%	2.5%	5.0%	100.0%	
合 計	入学定員	135	145	85	30	5	400		
	入学者数	118	120	93	14	8	353		
	計に対する割合	33.4%	34.0%	26.3%	4.0%	2.3%	100.0%		

2020年4月5日現在

[注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。また、当該入試制度を導入していない場合は、空欄とした。

表14 学生相談室利用状況

施設の名称	専任 スタッフ 数	非常勤 スタッフ 数	開室時間	年間開設日数			年間相談件数			備 考
				2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度	
学生相談室	0	1	10:00 ~ 17:00	17			54			臨床心理士
	0	1	10:30 ~ 13:30			8			12	臨床心理士
	0	1	16:30 ~ 19:30		22	37		33	70	臨床心理士
	0	1	10:00 ~ 13:00		21			16		スクール カウンセ ラー

表15 奨学金給付・貸与状況（2019年度）

（単位：千円）

奨学金の名称	給付・貸与の別	支給対象学生数 (A)	在籍学生総数 (B)	在籍学生数に対する比率 (%) A/B	支給総額 (C)	1件あたり支給額 C/A
日本学生支援機構奨学金	貸与	293	740	39.6%	174,715	596
	給付	34		4.6%	10,510	309
あしなが育英会奨学金	貸与	2		0.3%	960	480
	給付	2		0.3%	720	360
殿町奨学金	貸与	1		0.1%	240	240
計		332		740	44.9%	187,145

表16 授業料免除状況

(人)

年度		2017年度		2018年度		2019年度	
学期		前期	後期	前期	後期	前期	後期
希望者		12	29	53	64	64	74
全額免除	総数	6	15	26	36	30	32
	法経科第1部	2	4	8	10	9	9
	法経科第2部	0	1	7	8	7	8
	生活科学科	4	2	11	18	14	15
	1年次	0	5	10	16	14	19
	2年次	6	10	16	20	16	13
半額免除	総数	5	9	21	24	25	33
	法経科第1部	1	2	6	8	8	10
	法経科第2部	0	0	2	3	3	4
	生活科学科	4	7	13	13	14	19
	1年次	0	2	10	14	11	12
	2年次	5	7	11	10	14	21
不採用		1	5	6	4	9	9

表17 教員研究費

学科	研究費の内訳	2017年度			2018年度			2019年度			
		研究費 (円)	研究費総額 に対する割合 (%)	教員1人 あたりの額	研究費 (円)	研究費総額 に対する割合 (%)	教員1人 あたりの額	研究費 (円)	研究費総額 に対する割合 (%)	教員1人 あたりの額	
法経科	学内	研究費総額	5,650,000	100%	375,000	4,745,000	100%	365,000	5,110,000	100%	365,000
		経常研究費	3,220,000	57%	230,000	2,860,000	60%	220,000	3,080,000	60%	220,000
		学内共同研究費									
	学外	経常研究費	2,030,000	36%	145,000	1,885,000	40%	145,000	2,030,000	40%	145,000
		科学研究費補助金	400,000	7%	—						
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金									
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金									
		奨学寄附金									
		受託研究費									
		共同研究費									
その他											
生活 科学科	学内	研究費総額	7,200,000	100%	325,000	10,925,000	100%	315,000	10,050,000	100%	315,000
		経常研究費	2,880,000	40%	180,000	2,550,000	23%	170,000	2,720,000	27%	170,000
		学内共同研究費									
	学外	経常研究費	2,320,000	32%	145,000	2,175,000	20%	145,000	2,320,000	23%	145,000
		科学研究費補助金	1,000,000	14%	—	5,200,000	48%	—	3,510,000	35%	—
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金									
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金	1,000,000	14%	—	1,000,000	9%	—	1,500,000	15%	—
		奨学寄附金									
		受託研究費									
		共同研究費									
その他											

[注] 1 「教員1人あたりの額」は、個人研究費を含まない。

2 「学外の経常研究費」は、教育振興会からの研究費・旅費補助を含む。

表18 科学研究費の採択状況

学科	文 科 省 科 学 研 究 費								
	2017年度			2018年度			2019年度		
	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)
法経科	0	0	0.0	1	0	0.0	0	0	0.0
生活科学科	2	1	50.0	1	0	0.0	2	2	100.0
計	2	1	50.0	2	0	0.0	2	2	100.0

[注] 1 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみ示す。

表19 教員研究室の状況（2019年度）

学 科	室 数			総面積 (m ²)	1室あたりの 平均面積 (m ²)		専任教員数 (B)	個室率 (%) A/B	教員1人あた りの平均面積 (m ²)	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
法経科	14	1	15	313.0	19.5	40.0	12	117%	26.1	0
生活科学科	15	1	16	415.1	25.5	32.5	16	94%	25.9	1
計	29	2	31	728.1						

[注] 1 「備考」欄には、個室を持たない教員数を示す。

表20 専任教員の担当授業時間数（2019年度）

法経科（12人）

区分	教員	教 授	准 教 授	講 師	助 教	備 考
最 高		18.4 授業時間	12.4 授業時間	12.4 授業時間		1 授業時間:45分
最 低		6.0 授業時間	8.4 授業時間	6.4 授業時間		
平 均		12.3 授業時間	10.3 授業時間	9.7 授業時間		

生活科学科（16人）

区分	教員	教 授	准 教 授	講 師	助 教	備 考
最 高		12.1 授業時間	11.1 授業時間	10.1 授業時間	4.1 授業時間	1 授業時間:45分
最 低		9.1 授業時間	5.1 授業時間		4.1 授業時間	
平 均		11.0 授業時間	8.8 授業時間	10.1 授業時間	4.1 授業時間	

[注] 1 表3で算出した前期の毎週授業時間数をもとに、1週間あたりの授業時間数を記載した。

[注] 2 在外研修及び休職、並びに後期就職者を含む。

表21 公開講座の開設状況

講座名	年間開設講座数(A)			募集人員(延べ数)			参加者(延べ数)(B)			1講座当たりの 平均受講者数 (B)/(A)		
	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
オープンカレッジ	10	10	10	600	600	600	405	508	516	41	51	52
地域連携講座	2	2	1	120	120	120	73	77	40	37	39	40
出前講座	25	26	24	—	—	—	864	1563	946	35	52	39
計	37	37	36	720	720	720	1,342	2,148	1,502	36	57	42

表22 校地・校舎、講義室・演習室等の面積（2019年度）

校 地 ・ 校 舎				講 義 室 ・ 演 習 室 等	
校地面積 (m ²)	設置基準上必要 校地面積 (m ²)	校舎面積(m ²)	設置基準上必要 校舎面積 (m ²)	講義室・演習 室・ 学生実習室総数	講義室・演習室・ 学生実習室 総面積 (m ²)
24,871m ²	8,000m ²	6,982m ²	5,700m ²	27	2,530m ²

[注] 1 校舎面積には、講義室、演習室、学生実習室、実験・実習室、研究室、附属図書館（書庫、閲覧室、事務室）、管理関係施設（学長室、応接室、事務室、医務室等）、大学ホール、クラブハウス、廊下、便所等を含む。

表23 学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模（2019年度）

講義室・演習室 学生自習室等	室数	総面積 (㎡)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	学生総数	在籍学生1人あ たり面積(㎡)	備考
講義室			生活専用				
			法経専用				
	11	1,124	共用	940	740	1.52	
演習室	1	45	生活専用	12	328	0.14	
	5	75	法経専用	60	412	0.18	
	2	160	共用	75	740	0.22	
実験室	2	265	生活専用	100	328	0.81	
			法経専用				
			共用				
実習室	5	700	生活専用	241	328	2.13	
			法経専用				
	1	161	共用	52	740	0.22	
体育館	1	1,519	共用				

表24 図書資料の所蔵数（2019年度）

図書館の名称	図書の冊数（冊）		定期刊行物の種類（種類）		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類（種類）	過去3年間の図書受け入れ状況（冊）			備考
	図書の冊数	開架図書の冊数（内数）	内国書	外国書			2017年度	2018年度	2019年度	
三重短期大学附属図書館	101,227	35,000	104種類	15種類	379点	12種類	4,038	2,075	1,704	

[注] 1 視聴覚資料の所蔵数は、点数を示す。

表25 学生閲覧室等の面積・座席数（2019年度）

図書館の名称	図書館の面積 (㎡)	学生閲覧室	学生収容定員 (B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B	その他の学習 室の座席数
		座席数 (A)			
三重短期大学附属図書館	404㎡	76	800	9.5	0

表26 図書館利用状況

図書館の 名称	専任 スタッ フ数	非常勤 スタッ フ数	年間 開館日 数	開館時間	年間利用者数(延べ数)			年間貸出冊数		
					2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度
三重短期大 学 附属図書館	2 (2)	1.5 (1.5)	223	月～金 8:30～21:00	3,000人	3,163人	3,439人	5,630冊	6,141冊	6,127冊
				土 10:30～19:00 (1月・7月第3土曜日のみ)	教職員 363 学生 2,637	教職員 398 学生 2,765	教職員 411 学生 3,028	教職員 782 学生 4,848	教職員 1,144 学生 4,997	教職員 892 学生 5,235
				日祭日						
				長期休暇中 8:30～17:00						

[注] 1 () 内数字は司書の資格を有するものの人数を示す。

2 年間利用者数・貸出冊数には、一般開放による地域住民等は含まない。

3 非常勤スタッフについては、夜間のみのスタッフを0.5と換算する。

表27 歳入・歳出決算表

(円)

歳入・出	内訳	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
歳入合計		611,114,496	551,468,097	539,918,913	584,273,026	528,889,033	611,706,668	566,362,000
	授業料	223,595,500	217,225,000	219,779,000	215,652,500	219,095,000	227,303,500	213,183,000
	入学料	52,150,400	55,925,100	53,821,000	47,446,100	59,368,700	56,654,200	51,900,000
	入学検定料	11,634,000	13,348,000	11,513,000	13,203,000	14,138,000	13,370,000	12,760,000
	その他歳入	8,782,133	7,959,822	7,894,488	54,290,884	8,042,978	70,056,906	7,821,000
	一般財源	314,952,463	257,010,175	246,911,425	253,680,542	228,244,355	244,322,062	280,698,000
歳出合計		611,114,496	551,468,097	539,918,913	584,273,026	528,889,033	611,706,668	566,362,000
	①一般職給	435,419,791	433,581,648	418,798,765	411,884,817	407,120,234	417,178,346	432,632,000
	②大学管理運営事業	85,416,966	85,099,170	85,214,101	90,504,584	90,002,209	93,185,047	102,558,000
	③図書館管理運営事業	10,918,489	10,372,135	11,140,792	13,864,018	12,460,385	12,819,690	12,859,000
	④地域貢献推進事業	1,482,830	1,102,125	765,312	1,020,967	780,031	676,046	997,000
	⑤地域問題研究事業	2,361,986	2,355,300	2,393,756	2,436,758	2,360,368	1,034,866	2,662,000
	⑥教育研究関係事業	13,286,855	12,912,875	12,981,364	11,752,205	11,701,803	11,516,508	12,654,000
	⑦施設維持補修事業	62,227,579	6,044,844	8,624,823	52,809,677	4,464,003	75,296,165	2,000,000

(各年決算資料より作成 2020年度は予算額)

表28 教授会開催状況（2019年度）

開催年月日	定例・臨時の別	出席数(人)	欠席数(人)	審議事項
4/11	臨時	33	0	1 退学願について
4/18	定例	33	0	1 2019年度各種委員会委員について 2 休学願について 3 既修得単位の認定について 4 短大充実案具体化のためのWGの設置について
5/23	定例	32	1	1 退学願について 2 法経科専任教員の公募について
6/27	定例	31	2	1 休学願について 2 非常勤講師の採用について 3 2019年度開設講座表及び時間割について 4 在外研修の承認について 5 成績評価方法の変更について 6 附属図書館利用規程の一部改正について
7/18	定例	31	2	1 退学願・休学願について 2 法経科専任教員（経営学担当教員）公募（第1次選考）について
8/8	臨時	32	1	1 法経科専任教員（経営学担当教員）公募（第2次選考）について 2 退学願について 3 2019年度後期時間割について 4 学生の不正行為について
9/12	臨時	33	0	1 令和元年9月卒業判定について 2 休学願・退学願について 3 2019年度開設講座表及び時間割の変更について
9/12	臨時	33	0	1 法経科専任教員の公募について 2 生活科学科食物栄養学専攻専任教員の教授昇格について 3 2020年度行事日程について 4 教員資格審査委員会委員の選出について
9/26	臨時	33	0	1 令和2年度関連分野特別選抜入学試験合否判定について 2 専任教員の昇任について 3 生活科学科食物栄養学専攻専任教員人事について 4 休学願・退学願について 5 三重短期大学附属図書館複写規程の制定について 6 三重短期大学附属図書館図書館相互貸借規程の制定について 7 教員評価について
10/17	定例	33	1	1 退学願・休学願について 2 在外研修の承認について 3 2020年度後期行事日程（入試日程）について 4 短大充実案具体化のためのWG報告について 5 専任教員の昇任について 6 生活科学科食物栄養学専攻専任教員公募について 7 ハラスメント防止対策委員会委員の交代について
11/14	臨時	33	1	1 法経科専任教員（労働法担当教員）公募（第1次選考）について
11/21	定例	30	4	1 退学願について 2 非常勤講師の採用について 3 2020年度開設講座表について 4 試験における不正行為防止策について
11/24	臨時	33	1	1 令和2年度推薦入学者及び社会人特別選抜入学試験の合否判定について

12/12	臨時	32	2	<ul style="list-style-type: none"> 1 法経科専任教員（労働法担当教員）公募（第2次選考）について 2 非常勤講師の採用について 3 21年度入試改革の変更案について
12/19	定例	31	3	<ul style="list-style-type: none"> 1 退学願について 2 短大充実案具体化のためのWG報告について 3 2020年度開設講座表及び時間割について 4 令和2年度行事日程について 5 2021年度入試における英語民間試験の活用方法及び2021年度新入試における共通テスト利用選抜における国語記述式問題評価の得点換算について
1/16	定例	30	4	<ul style="list-style-type: none"> 1 法経科専任教員（行政学担当教員）公募（第1次選考）について 2 退学願について 3 非常勤講師の採用について 4 2020年度開設講座表及び時間割について 5 三重短期大学教員選考基準運用規定の一部改正について
2/6	臨時	33	1	<ul style="list-style-type: none"> 1 法経科第1部、生活科学科一般入試合否判定について 2 法経科専任教員（行政学担当教員）公募（第2次選考）について 3 生活科学科専任教員（食物栄養学専攻助教）公募（第1次選考）について 4 非常勤講師の会計年度任用職員への移行に伴う対応について
2/20	臨時	29	5	<ul style="list-style-type: none"> 1 法経科第1部、生活科学科大学入試センター利用選抜試験合否判定について 2 生活科学科専任教員（食物栄養学専攻助教）公募（第2次選考）について 3 非常勤講師の採用について
2/27	臨時	33	1	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和元年度卒業判定について 2 令和元年度栄養士免許取得要件の判定について 3 退学願について 4 2020年度開設講座表及び時間割について 5 三重短期大学教員評価委員会規程の一部改正について 6 令和2年度行事日程について 7 当面の学内行事への対応について
3/9	臨時	33	1	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和2年度法経科第2部（一般・社会人選抜）及びセンター試験利用（Ⅱ期）選抜入学試験合否判定について 2 再入学希望者に係る審査結果について 3 非常勤講師採用時の評定票について 4 法経科転部希望者の選考結果について ※ 教授会終了後、研究倫理委員会と競争的資金等不正防止委員会が合同で、全教員を対象に研修会を実施
3/25	臨時	29	5	<ul style="list-style-type: none"> 1 退学願について 2 2020年度開設講座表及び時間割の変更について 3 2020年度三重短期大学運営方針について 4 2020年度キャリア支援方針について 5 2020年度行事日程（前期）の変更について 6 授業時間の変更について 7 非常勤講師の資格変更（昇任）について 8 FD・SD活動WGの増員について 9 ハラスメントの防止に関する規定の一部改正について 10 教員資格審査委員会規程施行細則の一部改正について 11 教員評価について 12 教員資格審査委員会委員の改選について

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：村井 美代子
I 研究活動			
1 研究課題：イギリス・ロマン派の詩			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「英語Ⅰ」（基礎・夜・通年・2）、「英語講読」（共通・昼・通年・2）、「英語講読」（共通・夜・通年・2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	オフィスアワーには、進路相談に応じ、編入学希望学生には過去問の採点、志望理由書の添削、面接練習などを行った。また、TOEICや英検受験希望学生に、学習方法などの指導を行った。		
教育上の工夫	英語Ⅰ（基礎・夜・通年・2） 遅刻する学生はほとんどなく、クラス全体の出席率も高く、真面目なクラスだった。「自主的な学習」については、「積極的にいった」と「少しいった」を合わせると7割以上の学生が自主的に学習を行っていた。指名した際の授業準備も良く出来ていた。課題の提出率も高かった。テキストの進み具合が遅く、後期末にはシラバス記載の予定進捗度と開きが出てしまった点を反省している。今後は年間の授業計画をより慎重に検討したい。学外に出る時間が多くなったが、休講の場合は補講を行った。		
	英語講読（共通・昼・通年・2） 全体的に真面目で私語もなく、指名した際の授業準備も良く出来ていた。「自主的な学習」については、「積極的にいった」と「少しいった」を合わせると7割以上の学生が自主的に学習を行っている。課題の提出率も高かった。テキストの進み具合が遅くなり、後期末にはシラバスに記載した予定進捗度と開きが出てしまった。今後はより慎重に年間計画を立てたい。今年度は休講が重なり、前後期ともに複数日補講を実施した。		
	英語講読（共通・夜・通年・2） 非常に真面目で、指名した際の授業準備も良く出来ていた。「自主的な学習」については、「積極的にいった」と「少しいった」を合わせると、7割以上の学生が自主的に学習を行っている。課題の提出率も高かった。テキストの進み具合が遅くなり、後期末にはシラバス記載の予定進捗度と開きが出てしまった。今後は年間の授業計画をより慎重に検討したい。今年度は学外に出る時間が多くなり、休講が重なったが、複数日補講を行った。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本英文学会、イギリス・ロマン派学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「ヨーロッパの絵画や詩に描かれる無常観」三重短期大学オープンカレッジ（2019年11月）		
学外審議会委員等	三重県 県民功労者選考委員 内閣府 男女共同参画推進連携会議議員 日本高等教育評価機構 短期大学評価判定委員		
学外講演会講師等	「自己分析をキャリアに活かす」津市女性職員活躍セミナー（2019年2月） 「『赤毛のアンを読み直す』松阪公民館（2019年10月）		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール 小学2、3年生の頃、石井桃子訳の『くまのプーさん』を読んでイギリスが大好きになり、大学2年生の時にイギリスの詩人ジョン・キーツの作品と出会い、イギリス文学研究の道を歩むことになりました。「受験英語」から解放された学生の皆さんと、英文を読み解く楽しさを共有できることが理想です。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：法経科法律コース		職名：教授	氏名：楠本 孝
I 研究活動			
1 研究課題：ヘイトスピーチの刑事規制			
2 研究活動実績			
著書			
論文	楠本孝「ヘイトスピーチ被害の認識不足・矮小化が生む諸問題」別冊法学セミナー13『ヘイトスピーチに立ち向かう』（日本評論社）107～119頁、2019年10月10日刊		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：刑法（法Ⅰ・昼・前期・4）、刑法（法Ⅱ・夜・前期・4）、刑事政策（法Ⅰ・昼・後期・2）、法学基礎演習（法Ⅰ・昼・後期・2）、演習（法Ⅰ・昼・通年・4）、社会科学演習（法Ⅱ・夜・通年・4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	文学部顧問		
学内教育活動 （その他）			
教育上の工夫	刑法（法Ⅰ・昼・前期・4） 罪刑法定主義、法益保護の原則、責任主義など、刑法学の基本原則を丁寧に時間をかけて講義した。		
	刑法（法Ⅱ・夜・後期・4） 罪刑法定主義、法益保護の原則、責任主義など、刑法学の基本原則を丁寧に時間をかけて講義した。		
	刑事政策（法経Ⅰ・昼・後期・2） 死刑存廃論、終身刑導入論、少年法の概要、少年法改正、精神障害者の犯罪と対策について、丁寧に時間をかけて講義した。		
	法学基礎演習（法Ⅰ・昼・後期・2） 山口厚『刑法入門』（岩波新書）をゼミ生全員で精読した。		
	演習（法Ⅰ・昼・通年・4） ゼミ生が自分の研究テーマについて、先行研究の内容を報告し、ゼミ生全員で討議する形式で進め、最終的にゼミ生全員がゼミ論文にまとめ、ゼミ論集を作成した。		
	社会科学演習（法Ⅱ・夜・通年・4） ゼミ生が自分の研究テーマについて、先行研究の内容を報告し、ゼミ生全員で討議する形式で進め、最終的にゼミ生全員がゼミ論文にまとめ、ゼミ論集を作成した。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本刑法学会、日本犯罪学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	地域連携講座「外国人労働者をめぐる社会保障制度・労働政策」（奥貫妃文相模女子大学准教授、指宿昭一弁護士）のコーディネーター（2019年9月21日、41番教室）		
学外審議会委員等	津市人権施策審議会委員、津市青少年問題協議会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール 川崎市「差別のない人権尊重のまちづくり条例」について研究中です。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：石原 洋介
I 研究活動			
1 研究課題：東アジアにおける金融・経済協力、自由貿易協定（FTA）とWTOルールの研究、世界の南北格差の解決に向けての研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：金融論（法1、昼、後期、4）、金融論（法2、夜、前期、4）、国際経済論（法1、昼、前期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）、キャリア形成セミナー（共通、昼、前期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	短大生協理事、演劇鑑賞同好会顧問		
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスマナー、学外演習（日銀・東証見学）、卒論作成指導、編入学のための面接指導		
教育上の工夫	<p>法1「金融論」（後期）：金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。</p> <p>法1「国際経済論」（前期）：現在の新自由主義的グローバリゼーションがもたらした経済格差の拡大や国際金融の不安定化について理論、歴史、具体的事例、今後の課題と展望を学べるように、カリキュラム編成している。特に私の専門研究対象であるアジア経済を重点的にとりあげ、これまでの研究成果を生かした内容を教授するようにしている。</p> <p>法1「演習」（通年）：金融論演習では学生の興味関心を喚起するため夏季休暇を利用して日本銀行、貨幣博物館、東京証券取引所の見学を行う。前期はそれに向けての準備として日本銀行の機能や役割について学ぶようにしている。後期は卒論作成を通じた小論文作成指導（小論文コンクールで代替可）を行い、ゼミでは学生の興味関心に即したテーマを設定している。</p> <p>法2「金融論」（前期）：金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。</p> <p>法2「国際経済論」（後期集中講義）：現在の新自由主義的グローバリゼーションがもたらした経済格差の拡大や国際金融の不安定化について理論、歴史、具体的事例、今後の課題と展望を学べるように、カリキュラム編成している。特に私の専門研究対象であるアジア経済を重点的にとりあげ、これまでの研究成果を生かした内容を教授するようにしている。</p> <p>法2「社会科学演習」（通年）：社会科学演習では現代グローバリズムがもたらした諸矛盾を学び、どうすれば解決できるのかを学生とともに議論している。また、後期は学生の興味関心に即したテーマを設定してゼミ指導をしている。卒論指導（夏の小論文コンクールで代替可）や学園祭への参加も積極的に取り組んでいる。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本金融学会、経済理論学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	高等教育コンソーシアムみえ第2分科会、みえ花しょうぶサミット企画・運営、みえまちキャンパス審査委員長		
学外審議会委員等	三重県地方卸売市場運営協議会委員、みえ夢学園高校評価委員		
学外講演会講師等	久居高校出前講座「フェアトレードの挑戦」（2019.1.29）		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>図書館長の任期が終わったと思ったら、今度は新たに学生部長に選出され、研究に割ける時間がない状態が続いています。カリキュラム・入試改革が実施される2021年に向けた対応に追われていますが、新たな挑戦をするのは大変なだけでなく、楽しみもあり、やりがいを感じています。学生への教育指導だけは手を抜かないよう頑張りたいと思います。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：藤枝 律子
I 研究活動			
1 研究課題：行政活動に対する市民・住民の参加			
2 研究活動実績			
著書	『判例から考える行政救済法 第2版』（日本評論社、2019年9月）		
論文	「自治体戦略2040構想研究会第二次報告の概要と評価」三重法経152号2019年12月		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「行政法」（法Ⅰ、昼、前期、4）、「行政法」（法Ⅱ、夜、前期、4）、「演習」（法Ⅰ、昼、通年、4）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）、「法学入門」（法Ⅰ、昼、前期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー(金曜日16:10～17:40)、学外演習(裁判傍聴)、卒論作成指導、編入学のための面接試験指導		
教育上の工夫	「行政法Ⅰ部」学生の興味を引くように、テレビのドキュメント番組等を録画したDVDを観る機会を作るようにして、講義に少し変化をもたせるよう工夫しています。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ最近のニュースを素材にして授業を組み立てることを心がけているつもりです。今後も、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をしたいと思います。		
	「行政法Ⅱ部」判例だけでなく、新聞記事やテレビのドキュメント番組等の録画を利用して、学生たちの興味を引くように講義に変化を持たせるよう工夫しています。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ新しい判例や出来事を素材にして授業を組み立てることを心がけているつもりです。今後も、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をしたいと思います。		
	「演習」それぞれの学生が、卒論のテーマとして、行政判例の一つ選択します。自分が選んだ判例に対する裁判官役を務め、他のゼミ生に原告、被告に分かれて、それぞれの立場から意見を出してもらい、その意見を参考にしながら、卒論を執筆するようにしています。		
	「社会科学演習」前期の前半では、示した判例のディベートをしてもらい、意見を出し合うことに慣れてきた時点で、それぞれの学生が、卒論のテーマとして、行政判例の一つ選択します。自分が選んだ判例に対する裁判官役を務め、他のゼミ生に原告、被告に分かれて、それぞれの立場から意見を出してもらい、その意見を参考にしながら、卒論を執筆するようにしています。		
	「法学入門」3回担当。2回は、行政事件訴訟法について、最終回は国家補償について。時間が限られている中で、できるだけ、具体的な事件と判例を挙げて説明することによって、行政救済について理解を深めることができるように努力しました。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本教育法学会、日本公法学会、日本地方自治学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジ「自治体戦略2040構想をご存知ですか？」(2019年7月6日)		
学外審議会委員等	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員、津市建築審査会委員、三重県福祉サービス運営適正化委員会委員、津市いじめ問題対策連絡協議会委員、三重県行政不服審査会委員、鈴鹿市建築審査会委員、四日市市情報公開・個人情報保護審査会委員 等		
学外講演会講師等	桑名市役所職員研修講師「行政法」担当(2019年9月)		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
教育をはじめ、行政は我々にとって身近な存在であるにもかかわらず、遠くに感じられる存在でもあります。行政の活動に対してどのように市民・住民が関心を持ち、関わり、参加していけるか、その可能性を考えていきたいと思っています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：田中 里美
I 研究活動			
1 研究課題：内部留保の経営分析、実質法人税負担率の算定分析			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「受取配当金不算入制度の変遷と実態」『三重法経』2020年1月、No152、17ページ～30ページ、査読有。		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：会計学（法Ⅰ・昼・前期・4）、会計学（法Ⅱ・夜・後期・4）、税務会計論（法Ⅰ・昼・前期・2）、上級簿記（法Ⅰ・昼・後期・2）、演習（法Ⅰ・昼・通年・4）、演習（法Ⅱ・夜・通年・4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	華道部顧問		
学内教育活動 （その他）	クラス担任を担い、履修指導などに携わりました。毎週一時間半のオフィスアワーを実施しました。ゼミ生に対し、編入時の志望理由書の作成、編入面接の指導を行いました。卒業論文の作成指導を行いました。		
教育上の工夫	<p>会計学（法Ⅰ・昼・前期・4）前半は、会計学の歴史から始まり、近年の会計学の課題を講義しています。黒板に板書する形で、授業を進めています。後半は、情報処理実習室を利用して、企業の決算書分析を行いました。アンケートによると、わかりやすさの項目が低く、前半の会計学の歴史や近年の課題は、学生にとって少し難しかったようです。</p> <p>会計学（法Ⅱ・夜・後期・4）基本的には1部の会計学と同じ講義をしています。前半は、会計学の歴史から始まり、近年の会計学の課題を講義しています。黒板に板書する形で、授業を進めています。後半は、情報処理実習室を利用して、企業の決算書分析を行いました。アンケートによると、わかりやすさの項目が低く、前半の会計学の歴史や近年の課題は、学生にとって少し難しかったようです。</p> <p>税務会計論（法Ⅰ・昼・前期・2）2回に1度程度、コメントペーパーを利用して学生の意見を聞きながら授業を実施しました。学生のレベルに講義内容を合わせるとアンケートではおおむね良い評価をいただきました。</p> <p>上級簿記（法Ⅰ・昼・後期・2）日商簿記検定2級の商業簿記の内容を講義しました。時間の制約もありますので、3級の復習はあまりせず、2級の学習内容をしっかり終わらせるように努めています。</p> <p>演習（法Ⅰ・昼・通年・4）指定教科書の輪読と卒業論文の報告会を実施しました。</p> <p>演習（法Ⅱ・夜・通年・4）指定教科書の輪読と卒業論文の報告会を実施しました。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本会計研究学会、税務会計研究学会、会計理論学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジ「企業の内部留保とは？内部留保について考える」2019年、9月。		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
新型コロナウイルスの蔓延により、全世界的に不況に陥ろうとしています。今こそ、企業の内部留保や法人税の負担率を分析することで、企業が抱える問題について明らかにしていきたいと思えます。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：大畑 智史
I 研究活動			
1 研究課題：支出税構想の活用方法の検討、最適課税論の観点からの租税分析、J.S.ミルの租税論分析			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「J.S.ミルにおける租税論：公平性と効率性」（三重短期大学法経学会『三重法経』152、2019年、1-16頁、査読有）		
その他	「消費税増税の課題」（基礎経済科学研究所『経済科学通信』149、7-11頁、2019年） 「租税分野におけるマイナンバー制度の問題点：みえライフイノベーション総合特区の事例を考慮して」（三重短期大学地域問題研究所『地研年報』24、73-94頁、2019年） 「『経済科学通信』読者会で報告して」（基礎経済科学研究所『基礎研ニュース』44.6、6頁、2020年）		
学会等報告	「消費税増税の課題」（基礎経済科学研究所 第2回『経済科学通信』読者会、桃山学院大学梅田サテライト、2019年）		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目 地方財政論（法Ⅰ・昼・前期・2）、地方財政論（法Ⅱ・夜・前期・2）、財政学（法Ⅰ・昼・後期・4）、財政学（法Ⅱ・夜・後期・4）、演習（法Ⅰ・昼・通年・4）、社会科学演習（法Ⅱ・夜・通年・4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年クラス対象（対象 1部・2部）：主として、面談（進路、授業履修、他）、オフィスアワー、2年演習履修生対象（対象 1部・2部）：主として、面談（進路、授業履修、他）、卒業論文集作成関係（校正会実施）、オフィスアワー、学外学習（自由参加、伊勢河崎商人館・伊勢神宮（6月実施）・岐阜市柳ヶ瀬商店街（12月実施）、現地の方との交流を重視）		
教育上の工夫	<p>地方財政論（法Ⅰ・昼・前期・2）：できるだけ、各論点（地方債、公会計、他）の重要な点を、その関係各種データを参照したりしながら明瞭に伝える。このために、各回において、基本的に、中心となる資料（その回の内容の骨格がよくわかるもの）を提示し、これを、その関係の、板書や各種データや具体的事例などの内容で補足する、といった形で授業を進めている。また、地方財政論の全体像がつかめるよう、各回の内容の関連性へも配慮している。その他、学生の授業内容理解向上のため、毎回の内容が多くなりすぎないように配慮する、授業内容について学生自身で考えてもらう機会をできるだけ設ける、各回の最初数分程度は前回の簡潔なレビューをする、などの取組をしている。</p> <p>地方財政論（法Ⅱ・夜・前期・2）：基本的な工夫は「地方財政論」（昼）と同じだが、社会人の受講生が居られる場合には、そのご経験が活かされた授業内容へのコメントが多く、これは、受講生全員、自身にとって非常に有益で、適宜、授業中に当該コメントを紹介している（「地方財政論」（昼）でも紹介）。</p> <p>財政学（法Ⅰ・昼・後期・4）：基本的工夫は、「地方財政論」（昼）と同様である。 <財政学独自の工夫> ・中間テストを入れ、受講生の側、自身の側で、授業の効果を確かめる。 ・数式を活用した説明箇所が地方財政論の場合よりも多いが、なぜその式になるのか、などの視点も交えながらその内容をわかりやすく説明する。</p> <p>財政学（法Ⅱ・夜・後期・4）：基本的な工夫は「財政学」（昼）と同じだが、社会人の受講生が居られる場合には、そのご経験が活かされた授業内容へのコメントが多く、これは、受講生全員、自身にとって非常に有益で、適宜、授業中に当該コメントを紹介している（「財政学」（昼）でも紹介）。</p> <p>演習（法Ⅰ・昼・通年・4）：卒業研究ができるだけ深まるような議論を行っている。このために、受講生の関心のこちら側での把握、これと深く関係する資料の配布、2部社会科学演習の議論内容を知る機会の設定（卒業研究経過報告会、卒業研究最終報告会）、などの工夫を行っている。</p> <p>社会科学演習（法Ⅱ・夜・通年・4）：基本的な工夫は「演習」（昼）と同様である。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本経済学会、日本租税理論学会、国際文化政策研究教育学会、経済理論学会、基礎経済科学研究所、日本科学者会議、The World Association for Political Economy			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学地域連携センター オープンカレッジ テーマ「マイナンバー制度について」（2019年9月）		
学外審議会委員等	基礎経済科学研究所『経済科学通信』編集局員、基礎経済科学研究所 自由大学院事務局員、日本科学者会議三重支部幹事、三重県政府調達苦情検討委員会委員長		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
支出税構想の活用でICT活用は非常に有意義だが、このような視点を考慮し、今後、支出税構想の活用方法をより具体的に分析していきます。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：今本 幸平
I 研究活動			
1 研究課題：19世紀のドイツ文学（特にハインリヒ・ハイネ、ヴィルヘルム・ミュラー）			
2 研究活動実績			
著書			
論文	単著「ハインリヒ・ハイネとシュヴァーベン派詩人 『アッタ・トロル 夏の夜の夢』に関する一考察」、『ハイネ逍遙』第12号、2019年7月。		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：独語Ⅰ（基礎、昼、通年、2）、独語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）、独語Ⅱ（共通、昼、通年、2）、文学Ⅰ（共通、昼、前期、2）、文学Ⅰ（共通、夜、前期、2）、文学Ⅱ（共通、昼、後期、2）、文学Ⅱ（共通、夜、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	法経科第2部1年生のクラス担任として学生の指導を行った。 オフィスアワー：金曜1030-1200		
教育上の工夫	独語Ⅰ（昼）：初めて学ぶ外国語であることを考慮して、前期は進度よりもドイツ語に慣れることを第一に考えている。そのためにはまず読み方（発音）理解することが必要という考えから、発音練習を多く取り入れている。また、英語や日本語との比較なども説明に適宜取り入れ、言語全般にも関心が持てるよう努めている。今年度は説明の際に数回パワーポイントを使用した。		
	独語Ⅰ（夜）：昼に比べて受講者数が少ないため、個々の学生に目が行き届きやすかった。初めて学ぶ外国語であることを考慮して、前期は進度よりもドイツ語に慣れることを第一に考えている。そのためにはまず読み方（発音）に慣れることが必要という考えから、発音練習を多く取り入れている。また、英語や日本語との比較なども適宜取り入れて、言語全般にも関心が持てるよう努めている。今年度は説明の際にパワーポイントを数回使用した。		
	独語Ⅱ：新たな文法事項をスムーズに学べるように、独語Ⅰで学んだ内容を随時復習するようにしている。 独語Ⅰで学んだドイツ語を、せつかつくなのでもう少しやりたい、という動機で履修する学生のために、検定試験の対策問題などにも取り組み、学習意欲を刺激するよう努めている。今年度は説明の際に数回パワーポイントを使用した。		
	文学Ⅰ（昼）：普段あまり読書をしないという学生でも、読んでみようという気持ちがあっても起きるように、ポイントとなる場面の解説に関連画像などを用いて行っている。また、自分の意見を書くことに慣れるために、毎回テーマを決めてコメントカードを提出させている。		
	文学Ⅰ（夜）：昼間の授業に比べると、授業で取り上げた作品を自主的に読むなどする熱心な学生が多かった印象であった。読書経験が少ない学生でも、少しでも興味がわくように、時代背景などを関連画像などを用いて行っている。また、自分の意見を書くことに慣れるために、毎回テーマを決めてコメントカードを提出させている。		
	文学Ⅱ（昼）：ドイツ文学という「難しそう」な内容に関わらず、熱心に聴いてくれる学生が多かった。ドイツ文学は決して難しいものばかりではないと感じてもらえるよう、重要場面の状況や当時の時代背景などをできるだけ具体的に分かりやすく説明するよう努めている。		
	文学Ⅱ（夜）：ドイツ文学という「難しそう」な内容に関わらず、熱心に聴いてくれる学生が多かった。ドイツ文学は決して難しいものばかりではないと感じてもらえるよう、重要場面の状況や当時の時代背景などをできるだけ具体的に分かりやすく説明し、文学作品を遠い世界の物語としてではなく、自分の身近な問題と関連づけて読めるよう努めている。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本独文学会、阪神ドイツ文学会、関西大学独逸文学会、ハイネ逍遙の会、 Internationale Wilhelm-Müller-Gesellschaft（国際ヴィルヘルム・ミュラー協会）			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
ドイツ語の響きのかっこよさにひかれてドイツ語とドイツ文学を学び始めました。今でも変わっていないその気持ちを、学生たちと少しでも共有できるような授業ができるよう努力したいと思います。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：法経科	職名：准教授	氏名：田添 篤史
I 研究活動		
1 研究課題：社会システムの再生産およびその方向性		
2 研究活動実績		
著書		
論文	「資本主義特有の『搾取』－その発生の必然性」経済科学通信 149号（2019年10月）	
その他		
学会等報告	経済理論学会第67回大会「金融的収益の重要化と格差の変動の関係」2019年10月19日、 基礎経済科学研究所春季研究交流集会「資本主義下における進歩の方向性に関する検討－日本経済を例として」2020年3月21日	
共同研究 助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目 演習（法Ⅰ・昼・通年・4）、社会科学演習（法Ⅱ・夜・通年・4）、経済原論（法Ⅰ・昼・前期・4）、経済原論（法Ⅱ・夜・前期・4）、経済学史（法Ⅰ・昼・後期・2）、統計学（法Ⅱ・夜・後期・2）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 (その他)	経商コースのⅠ部およびⅡ部のクラス担任を受け持ち各種の指導を行った。 ゼミ生に対して編入・就職指導を個別に行った。	
教育上の工夫	<p>経済原論（昼・前期）：教科書をベースとして要点のみを抜き出したレジュメを作成し、毎回配布した。理解が難しいと思われる個所については、繰り返し説明するようにした。講義の最初に前回の講義の要点を改めて説明することで理解度の向上を狙った。</p> <p>経済原論（夜・前期）：昼の経済原論と同様の工夫を行ったが、それに加えて昼の講義で不十分だった点を反省し、夜の講義において説明方法、板書の改善を行った。</p> <p>経済学史（昼・後期）：経済学史で取り扱う学者たちの理論は、現代の経済理論と比較すると素朴であるが、それだけに要点となる考え方が理解しやすい形で表現されている。そのことを活用して、経済学的な考え方の要点をつかむことを意図した説明を行った。また前期の経済原論はミクロ・マクロ経済学が中心であるが、経済学史においてそれ以外の経済学的な考え方も紹介し、経済学に対する認識の豊富化を図った。また前年度と比べて内容を絞り込み全体像が把握しやすいようにした。</p> <p>統計学（夜・後期）：統計学は確率理論の理解が必須であるため難解な部分が多い。そのため厳密な理解というよりは統計学の考え方を直感的に把握するということを重視した説明を行った。また毎回の講義の最後には小テストを課し、実際に問題を解かせて説明を加えることで理解を深めることを狙った。</p> <p>演習（昼・通年）：前期では日本経済に関するテキストを輪読し自分自身の興味ある対象が何かを探し、後期では卒業論文の作成を行うことで自分の意見をまとめていくということを行った。他者の発表にコメントを加えて討論することで、自分の意見を根拠つけて述べる力を養っていくことを重視した。</p> <p>社会科学演習（夜・通年）：前期ではテキストの輪読を行い、後期で卒業論文の作成を行うという形で進めた。内容および重視した点は昼の演習と同一である。</p>	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本経済学会、経済理論学会、経済統計学会、政治経済研究所、基礎経済科学研究所		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等		
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師	京都大学経済学研究所「Introduction to East Asian Economies」	
3 一言アピール		
<p>ある社会システムが安定的に再生産されるのはどのような場合か、またその方向性は内部の力によってどのように決定されるのかということについて研究を行っています。</p> <p>教育面では、経済原論という難解ではありますが、経済学のコアとなる部分について少しでも理解してもらえるように努力していきます。</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：法経科		職名：講師	氏名：川上 生馬
I 研究活動			
1 研究課題：消滅時効制度と私的自治（日本法とフランス法）			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<p>「当事者間で合意された期間の性質—消滅時効期間（délai de prescription extinctive）と訴権消滅期間（délai de forclusion）—」法と政治 70 巻 4 号（2020 年）1119-1150 頁</p> <p>「消滅時効制度における公序と私的自治の関係—フランスにおける時効期間の合意変更の枠組みを手掛かりに—」博士論文（関西学院大学、2020 年）1-113 頁</p>		
その他	判例評釈「NHK受信料債権の消滅時効の起算点—判決による受信契約締結の場面について—」最高裁大法廷平成29年12月6日判決民集71巻10号1817頁——」三重法経152号（2019年）31-48頁		
学会等報告	第13回関西民事法若手研究会「当事者間で合意された期間の性質—消滅時効期間(délai de prescription extinctive)と権利行使期間(délai de forclusion)」(2019年5月19日)、大阪市立大学民法研究会「期間に関する合意の有効性とその根拠—時効期間と権利行使期間を対象として—」(2019年6月22日)、末川民事法研究会9月例会「NHK受信料債権の消滅時効の起算点—判決による受信契約締結の場面について(最高裁平成29年12月6日判決民集71巻10号1817頁)」(2019年9月22日)、法理論研究会「時効期間の合意による変更—消滅時効制度と私的自治の関係—」(2019年11月2日)		
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：民法Ⅰ（法Ⅰ、昼、前期、4）、民法Ⅰ（法Ⅱ、夜、前期、4）、民法Ⅲ（法Ⅰ、昼、後期、2）、法学基礎演習（法Ⅰ、昼、後期、2）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動（その他）	クラス担任、オフィスアワー、卒論指導、編入学指導、公務員試験指導、就職試験指導		
教育上の工夫	民法Ⅰ（法Ⅰ、昼、前期、4） 非常に範囲が広く、理解することが困難な科目であることから、毎回要点をまとめたレジュメを配布し講義を行った。具体例を多く取り上げ、いかなる場合に民法での解決が可能となるのかを図も用いながら解説した。また、知識の定着を目的として練習問題を数十問行い、さらに、解答時間中に教室内を巡回し、適宜質問に対応した。		
	民法Ⅰ（法Ⅱ、夜、前期、4） 非常に範囲が広く、理解することが困難な科目であることから、毎回要点をまとめたレジュメを配布し講義を行った。具体例を多く取り上げ、いかなる場合に民法での解決が可能となるのかを図も用いながら解説した。また、知識の定着を目的として練習問題を数十問行い、さらに、解答時間中に教室内を巡回し、適宜質問に対応した。		
	民法Ⅲ（法Ⅰ、昼、後期、2） 毎回要点をまとめたレジュメを配布するとともに、新たな取り組みとしてパワーポイントにレジュメの内容及び追加の解説や事例の権利関係の図などを入れ、講義を行った。また、知識の定着を目的として練習問題を数十問行い、さらに、解答時間中に教室内を巡回し、適宜質問に対応した。		
	法学基礎演習（法Ⅰ、昼、後期、2） ゼミ生が10名であったことから、2名1班に分かれてもらい、関心のある民法に関連する判例の報告を行ってもらった。また、早い段階から卒業論文執筆に向けて準備を始めたいとのことから、後半数回分の講義では、各自が卒業論文のテーマとしたい問題について概要報告を行ってもらった。その後、中間報告書を提出してもらい、添削を行った。資料収集、教科書要約、判例評釈の理解など事前の指導に加え、報告の仕方や報告内容に関する質問を行うことで、リサーチ力、プレゼン力の向上を図った。		
	演習（法Ⅰ、昼、通年、4） ゼミ生が19名と非常に多い中、毎回4～5名に各自の卒論の進捗状況を行い、他のゼミ生はそれに対して質問をするという形で講義を行った。人数と時間の都合上、全員が必ず毎回発言することはかなわなかったが、自身の興味のある問題以外に対しても法的な視点から質問を行う機会を作ることで、単に一方的に報告を聞く以上に法的思考能力が向上したのではないかと考える。最終的に各自10000～20000字程度の卒業論文を執筆してもらい、卒業論文集にまとめた。		
	社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4） ゼミ生があまり多くなかったこともあり、毎回報告者は2～3名とし、全員が毎回必ず質問するという形で進めた。法経科第二部では2年生になってから演習が開始されることもあり、はじめから法的な質問のみに限定してしまうと質問をする意欲をそぎかねないことから、前期の間は単純な用語の質問なども認める形を採用した。その結果、発言することに抵抗を感じなくなり、後期に入ってから法的な確かな質問が多く出されるようになった。最終的に各自10000～15000字程度の卒業論文を執筆してもらい、卒業論文集にまとめた。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本私法学会、比較法学会、日仏法学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学・三十三総研主催第13回小論文・作品コンクール「持続可能な社会～SDGsの視点から～」小論文審査員		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等	みえアカデミックセミナー「新しい相続の仕組み」（2019年8月16日）		
その他の社会活動			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

他大学非常勤講師	日本福祉大学経済学部「民法」（後期、4）
<p>3 一言アピール</p> <p>消滅時効期間と合意の問題を研究することには時効制度の趣旨を探究するという目的に加え、当事者間での合意の有効性や強行法規の在り方を考えるための視座を得るという目的も含まれます。また、近年では民法改正の影響が労働法などにも波及しており、今後さらに多角的な研究が求められる分野となっていると言えます。今後は保険法、労働法の問題、また、NHK受信料債権の問題などもより深く研究していくことを予定しています。</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：法経科	職名：講師	氏名：鎌塚 有貴
I 研究活動		
1 研究課題：軍事予算統制，文民統制		
2 研究活動実績		
著書		
論文	「ドイツにおける予算概念の変遷」『憲法の可能性（憲法理論叢書 27）』（2019年、敬文堂）259頁。	
その他		
学会等報告		
共同研究		
助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：日本国憲法（法Ⅰ、昼、通年、4）、日本国憲法Ⅰ（生活、昼、前期、2）、日本国憲法Ⅱ（生活、昼、後期、2）、日本国憲法（法Ⅱ、夜、後期、4）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4）、憲法訴訟論（法Ⅰ、昼、後期、2）、法学基礎演習（法Ⅰ、昼、後期、2）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、編入学試験対策・指導	
教育上の工夫	日本国憲法（法Ⅰ、昼、通年、4、生活、昼、前期、2、生活、昼、後期、2） 新聞記事などを利用して、時事問題も扱った。	
	日本国憲法（法Ⅱ、夜、後期、4） 判例の解説に重点を置き、理解を深めるよう努力した。	
	憲法訴訟論（法Ⅰ、昼、後期、2） 判例を詳細に分析しながら、実務での憲法解釈の方法を扱った。	
	法学基礎演習（法Ⅰ、昼、後期、2） 講義の復習をしながら、外国憲法の比較など発展的な課題に取り組んだ。	
	演習（法Ⅰ、昼、通年、4） 卒業論文の完成に向けて指導した。	
	社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4） 学生の自主的な取り組みによる発表形式のゼミを運営した。	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本公法学会、全国憲法理論研究会、憲法理論研究会、日本財政法学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等		
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
多くの学生が主権者として選挙に関心を持ち投票に行くために、まず日本国憲法をより身近に感じてもらうことを自らの目標としています。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：浅野 和也（2019年10月採用）
I 研究活動			
1 研究課題：自動車産業における労使関係・労務管理研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目 経営学（法Ⅱ・夜・後期・4）、人的資源管理論（法Ⅱ・夜・後期・2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	オフィスアワー：月曜16時10分～17時40分		
教育上の工夫	<p>経営学（法Ⅱ・夜・後期・4）</p> <p>パワーポイントは用いずプリント教材を配布しオーソドックスな講義を実践した。現在、話題・問題になっているビジネスの事例を取り入れつつ、学説の解説も行うことで理論と実態へのアプローチに努めた。また、受講者の理解度を確認するためのコメントシートや不定期の課題レポートを行った。受講者からは「わかりやすく面白かった」などのコメントを得ることができた。</p> <p>人的資源管理論（法Ⅱ・夜・後期・2）</p> <p>パワーポイントは用いずプリント教材を配布しオーソドックスな講義を実践した。人的資源という、経営者が人材を有効活用するためのツールと思われがちなので、働く側からの視点に重点を置いた内容で講義を実践した。なぜ働きすぎによる過労死や過労自殺、うつ病などが社会問題化しているのか制度や構造的な問題、それが私たちの生活に与える影響などについて幅広く扱った。また、受講者の理解度を確認するためのコメントシートや不定期の課題レポートを行った。受講者からは「卒業後の働くことを意識することができてよかった」などのコメントを得ることができた。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：社会政策学会、労務理論学会、日本労務学会、労働社会学会、日本経営学会、北ヨーロッパ学会、過労死防止学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	社会政策学会秋季大会企画委員、労務理論学会理事、北ヨーロッパ学会理事、若年地域連携事業に関する技術審査委員会委員、令和2年度訓練受講者希望者等に対するジョブ・カード作成支援推進事業に関する技術審査委員会委員、令和2年度地域サポートステーション事業に係る提案書技術審査委員会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	愛知東邦大学「経営学Ⅱ」「経営管理論Ⅱ」「専門演習Ⅳ」、中京大学「アメリカ経営史」		
3 一言アピール			
<p>経営学をはじめ社会科学を学ぶことをつうじて、社会は多種多様な価値観で形成されているからこそ論理的考察が重要であることを感じてもらえたらと思います。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：南 有哲
I 研究活動			
1 研究課題：環境概念の理論的探究、生活科学についての原論的理解の深化、外来生物問題をめぐる環境思想の研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	家政学の対象としての「内部環境」について 日本家政学会家政学原論部会夏期セミナー 2019年8月26日		
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：環境論（共通、夜、前期、2）、生活経営（食栄・生活、昼、前期、2、隔年）、生活と環境（食栄・生活、昼、前期、2、隔年）環境政策論（法Ⅰ・生活、昼、後期、2）、環境政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）、地域政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）環境倫理学（生活、昼、後期、2、隔年）、環境共生論（生活、昼、前期、2、隔年）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	一年次クラス担任、科学英語講読会		
教育上の工夫	<p>環境論（共通、夜、前期、2）：自然科学的テーマに内容を限定</p> <p>生活経営（食栄・生活、昼、前期、2、隔年）：生命再生産活動の概念を丁寧に説明し、市場経済の原理的なレベルでの理解を合わせて、現代における生活者の基本課題を理論的に解説している。</p> <p>環境政策論（法Ⅰ・生活、昼、後期、2）：社会科学的テーマに内容を限定。</p> <p>環境政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）：社会科学的テーマに内容を限定。</p> <p>地域政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）：地域の基幹たる第一次産業の課題について生物多様性の見地から解説している。</p> <p>環境倫理学（生活、昼、後期、2、隔年）：主たる理論潮流と現実課題をセットで論じ、理解を深める。</p> <p>生活と環境（食栄・生活、昼、前期、2、隔年）：生活に直接かかわる環境問題（公害、消費、廃棄物）の解説。</p> <p>環境共生論（生活、昼、前期、2、隔年）：毎回視聴覚教材を使用し、環境問題のリアルな理解を図っている。</p> <p>居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）：視聴覚教材を利用してリアルな認識を得たうえで、それを基にした説明と討論を行い、最後に感想文を書かせることで、参加者自身の認識の深化を図っている。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：唯物論研究協会、基礎経済科学研究所、関西唯物論研究会、日本家政学会、同家政学原論部会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等	外来生物問題の環境倫理 三重生物教育会 2020年1月28日		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
環境思想と家政学原論の統合を目指します。			
（研究テーマの応用例：外来生物問題の環境倫理）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：長友 薫輝
I 研究活動			
1 研究課題：社会福祉および社会保障制度・政策研究、地域福祉・地域医療研究、社会福祉援助技術論研究			
2 研究活動実績			
著書	『地域の病院は命の砦～地域医療をつくる政策と行動～』自治体研究社、2020年（横山壽一氏と共編著）		
論文	「地域医療構想・自治体病院をめぐる現状と課題」『医療労働』No.624、2019年		
	「尊厳ある高齢者を支える医療はいま：新たな公的医療費抑制策の展開」『人権と部落問題』No.71、2019年		
	「国民健康保険にみる皆保険体制をめぐる政策動向 医療保障の充実に向けて」『経済』No.291、2019年		
	「公立・公的病院の再編統合と地域医療」『住民と自治』No.682、2020年		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	「地域の医療保障と皆保険体制の動向について」2019年度 三重短期大学地域問題研究所研究員		
II 教育活動			
1 担当科目：社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、社会福祉論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、社会福祉論（法Ⅰ、昼、前期、2）、地域福祉論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、後期、3）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ボランティアサークル部顧問		
学内教育活動 （その他）	四年制大学への編入を希望する学生に、小論文の書き方指導、面接指導を個別に実施した。1年生クラス担任（前期）、オフィスマワー（月曜日3限）、学外演習（自治体、医療機関、福祉施設、労働市場等の現場での演習）、卒論作成指導		
教育上の工夫	<p>社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会保障論においては特に学生にとって難解な用語が多く、解説に時間を割いている。</p>		
	<p>社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会保障論においては特に学生にとって難解な用語が多く、解説に時間を割いている。</p>		
	<p>社会福祉論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会福祉論においては、貧困問題に関心を持って深めること、そして多様性を理解してもらえるよう、伝え方などに工夫を重ねている。</p>		
	<p>社会福祉論（法Ⅰ、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会福祉論においては、貧困問題に関心を持って深めること、そして多様性を理解してもらえるよう、伝え方などに工夫を重ねている。</p>		
	<p>地域福祉論Ⅱ（生活、昼、後期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。その上で地域福祉論においては、地域の様々な生活上の課題に関心を深めてもらえるよう、地域調査の手法を用いて問題意識の醸成に努めている。</p>		
	<p>社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3） 1年生にとって初めての実習であり、ほどよい緊張感を持って臨んでもらえるよう、そして良好な人間関係を築くことができるよう、指導を行っている。</p>		
	<p>社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3） 18日間と長期に渡る実習期間において、実習先の利用者・職員の方々との良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行っている。</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

	<p>社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、後期、3） 実習をより効果的なものとするため、実習先についての問題関心を深めるとともに、社会福祉の視点を持ち、実習先の利用者・職員の方々との良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行っている。</p>
	<p>福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 各人の問題意識に従って研究報告を行い、卒業論文を提出できるよう指導している。</p>
	<p>福祉心理演習（生活、昼、通年、4） 各人の問題意識に従って研究報告を行い、卒業論文を提出できるよう指導している。</p>
<p>Ⅲ 学会等及び社会における主な活動</p>	
<p>1 所属学会：日本社会福祉学会、社会政策学会、日本医療福祉政策学会、日本社会福祉士会、三重県社会福祉士会</p>	
<p>2 社会活動実績</p>	
地域連携事業	<p>三重県デイサービスセンター協議会「在宅福祉の協働を考える」2019年12月、2020年1月 全国若手市議会議員の会「新しい国保のしくみと自治体」2020年1月 出前講座「身近にある社会保障のこと」三重県立朝明高校、2019年11月 松阪地区飯南・飯高地域けあネット「地域の医療や福祉のこと」飯高公民館、2019年11月</p>
学外審議会委員等	<p>三重県行政不服審査会委員、三重県社会福祉審議会委員、三重県国民健康保険運営協議会委員、三重県障害者自立支援協議会会長、松阪市地域包括ケア推進協議会会長、松阪市民病院のあり方検討委員会副委員長、四日市市市民協働促進委員会副委員長、桑名市障害者自立支援協議会会長、三重県社会福祉協議会強化発展計画策定委員長、津市NPOサポートセンター理事、津市社会福祉協議会顧問、日本医療福祉政策学会副会長、日本医療総合研究所理事、自治体問題研究所理事、総合社会福祉研究所理事</p>
学外講演会講師等	<p>社会福祉・社会保障、地域医療、国民健康保険、地域づくり等に関するテーマで年間30回程度引き受けている。</p>
その他の社会活動	<p>医療、介護、社会福祉に関するマスコミへの取材協力、寄稿</p>
他大学非常勤講師	<p>名城大学経済学部「地域福祉論」、皇学館大学現代日本社会学部「社会保障論」、三重県立看護大学「保健福祉行政論」、四日市大学経済学部「社会福祉概論」、金沢大学大学院医薬保健学総合研究科「医療経済特論」</p>
<p>3 一言アピール</p> <p>地域を元気にする調査・研究を地域づくりに関わる人々で行っています。また、社会保障制度をわかりやすく話すとともに、多様な社会をどうつくるか、をテーマに教育・研究活動を行っています。</p> <p>（ 研究テーマの応用例：地域医療、地域福祉に関するワークショップや計画づくり、地域住民の意向調査、医療法人・社会福祉法人職員研修 ）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：木下 誠一
I 研究活動			
1 研究課題：住宅・施設における生活空間の計画			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	「三重短期大学・JIA出前授業」、建築ジャーナル「ARCHITECT」、2019.5 「JIA三重建築文化講演会講演レポート」、建築ジャーナル「ARCHITECT」、2020.3		
学会等報告	木下誠一、藤枝秀樹、今井正次：「地域に開かれた外部空間を有する複合施設の共用空間の特性 公共複合施設における共用空間のあり方に関する研究 その3」、日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）、2019.9 藤枝秀樹、木下誠一、今井正次：「複合施設の多様な共用空間の特性 公共複合施設における共用空間のあり方に関する研究 その4」、日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）、2019.9		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目 居住計画論（生活・昼・前期・2）、居住福祉論（生活・昼・後期・2）、住生活論（生活・昼・後期・2）、住生活設計Ⅰ（生活・昼・後期・2）、住生活設計Ⅱ（生活・昼・前期・2）、居住環境特別演習（生活・昼・通年・4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年次クラス担任、オフィスアワー、卒業研究指導、編入学指導		
教育上の工夫	<p>居住計画論（生活・昼・前期・2） パワーポイントやビデオを使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。学生の質問や意見を授業に反映させる工夫として、今年度から授業冒頭に、毎回提出されたレポートの中から幾つか特徴的なものを選んで紹介解説するようにした。</p> <p>居住福祉論（生活・昼・後期・2） パワーポイントやビデオを使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。また、学生の資格取得への関心と意欲を高めるため、資格試験に関連した内容を演習問題などに一部取り入れている。しかし、学生の質問や意見を授業に反映させることが不十分であるため、今後は毎回実施する小テストに質問も書いてもらい、次回の授業で回答するなどの対応を考えたい。</p> <p>住生活論（生活・昼・後期・2） パワーポイントやビデオを使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。学生の質問や意見を授業に反映させる工夫として、今年度から授業冒頭に、2～3回に一度のペースで課しているレポートの中から幾つか特徴的なものを選んで紹介するようにした。</p> <p>住生活設計Ⅰ（生活・昼・後期・2） 学生の理解度や作業の進捗度において個人差が大きいため、学生一人ひとりの状況に応じた個別指導を心掛けている。外部講師（地元建築家）にエスキスを2回指導していただいたが、学生にも好影響を与えているようであった。</p> <p>住生活設計Ⅱ（生活・昼・前期・2） 学生の理解度や作業の進捗度において個人差が大きいため、学生一人ひとりの状況に応じた個別指導を心掛けている。また、学生同士が互いに意見を交わしながら創作活動に取り組める環境を大切にしている。しかし、授業に関係のない私語で騒がしくなることがあるため、慎むよう指導していきたい。</p> <p>居住環境特別演習（生活・昼・通年・4） 学生の主体性を尊重し、学生自身に研究テーマを設定させている。また、研究成果を居住環境コースの卒業研究発表会で発表している。今年度は、卒業設計の中間発表の際に、外部講師（地元建築家）に指導していただく機会を設けたが、学生のモチベーションも高まり良い刺激となったようであった。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本建築学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	三重県開発審査委員会委員、三重県公共事業評価審査委員会委員、三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員、鈴鹿市景観審議会審査部会委員、鈴鹿市景観アドバイザー、松阪市景観アドバイザー、津市景観アドバイザー、津市景観審議会委員、鳥羽市都市計画審議会委員、日本建築学会東海支部常議員、日本建築学会東海賞審査委員長、日本建築学会設計競技支部審査委員、三重県建設業協会三重県建築賞審査委員長、三重県建設技術センター理事		
学外講演会講師等			
その他の社会活動	宇治山田高校探求学習指導助言		
他大学非常勤講師	高田短期大学「生活の理解Ⅲ」非常勤講師		
3 一言アピール			
子どもから高齢者まで快適に暮らせる生活空間の質向上を目指した提案を行っていきたくと思っています。 （研究テーマの応用例：住宅や各種施設の計画・設計）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：教授	氏名：山田 徳広
I 研究活動			
1 研究課題：プロテアーゼを用いた牛乳と豆乳のゲル化食品に関する研究、小豆の加工に関する研究、グルテンフリーパンの開発に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	Norihiro Yamada, Yasushi Kokean and Kazunobu Tsumura, Novel Insights into the Formation of Soymilk Gel Induced by Ginger Rhizome Juice, Food Science and Technology Research, 25 (5), 751-754, 2019		
	Norihiro Yamada, Yasushi Kokean, Kaori Umetani, Jun Shimizu, Osamu Kurita & Kazunobu Tsumura, Protease Activity and Gel-forming Ability of Ginger Rhizome Juice, Journal of Food Research; Vol. 9, No. 2; 2020		
その他	山田徳広, 「ショウガで固まる牛乳」理科教育ニュース縮刷・活用版 理科実験大百科第20集, P51-52, 少年写真新聞社, 2020		
学会等報告	山田徳広, 福島明, ブレンダー・ミキサーを用いた小豆デンブンの破壊, 酵素糖化, 甘味料無添加の餡状食品の作成に関する研究, 日本食品科学工学会第66回大会, 2019年8月, 札幌		
	生川卓弘, 杉野香江, 福島明, 伊藤知子, 津村和伸, 荅庵泰志, 山田徳広, ヒヨコマメ豆腐(ピルマ豆腐)の作成条件に関する研究, 第67回日本食品保蔵科学学会大会, 2019年6月, 福岡		
	福地かおり, 関和俊, 相川悠貴, 小木曾洋介, 古淵陸行, 山田徳広, 高木祐介, バス移動を伴う富士山五合目での短期滞在が消化器系症状へ及ぼす影響について, 第39回日本登山医学会学術集会, 2019年6月, 筑波		
	小木曾洋介, 関和俊, 山田徳広, 相川悠貴, 古淵陸行, 福地かおり, 高木祐介, 若年女性の日帰り富士山登山時における塩味閾値と塩味欲求指数の変化, 第39回日本登山医学会学術集会, 2019年6月, 筑波		
共同研究	三重県工業研究所との共同研究		
助成研究	平成31年度豆類振興事業助成金 課題名: 「小豆を用いた発酵飲料の開発」 公益財団法人 日本豆類協会 地域問題研究所研究助成		
II 教育活動			
1 担当科目：栄養学（食栄、昼、後期、2）、生化学（食栄、昼、前期、2）、ライフステージ栄養学（食栄、昼、前期、2）、食生活（食栄、昼、後期、2）、生化学実験（食栄、昼、前期、1）、栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)			
教育上の工夫	生化学（食栄、昼、前期）：高等学校で化学を履修していない学生が多くなったことから、高校化学の基礎的事項から講義している。後期の栄養学の教科書も購入させ、両科目で重なる部分を整理して効率的に教えている。		
	生化学実験（食栄、昼、前期）：高等学校で化学を履修していない学生が多くなったことから、高校化学の基礎的事項から講義している。また、初めての実験授業であることから、実験の心得、実験器具の基本的書き方などをじっくり教えている。		
	栄養学（食栄、昼、後期）：前期の生化学とリンクさせながら、栄養素の代謝について教授している。前期の生化学において栄養学の教科書も購入させ、両科目で重なる部分を整理して効率的に教えている。		
	栄養学実験（食栄、昼、後期）：栄養素の特徴、消化のされかた、代謝のされかたなどを、実験を通して体験させている。実験をするだけでなく、実験データの信頼性の評価の仕方まで踏み込んでいる。		
	食生活論（食栄、昼、後期）：食に関する社会問題について、DVDも使いながら講義している。DVDを見た後は必ずA4レポート用紙1枚分のレポートを書かせ、食の問題に関して意見をまとめられる様、訓練している。今後も、食の問題が社会環境に大きく影響される事を、最新の事例を用いて解説して行きたい。		
	ライフステージ栄養学（食栄、昼、前期）：4年生課程では通年30回で実施する授業であるが、半期15回しか時間が無いので、パワーポイントを使って効率的に授業をしている。特に、これから学生自身にとって重要となる、妊娠期と子供の栄養についてじっくりと教えている。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養食糧学会、日本農芸化学会、日本食生活学会、日本食品科学工学会、日本食品保蔵科学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	513ペーカリーとのコラボ企画指導		
学外審議会委員等	三重県「みえ食の“人財”育成プラットフォーム」検討委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
2020年度より他大学に赴任しました。今後とも三重短期大学、津市、三重県の発展に協力する所存であります。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：教授	氏名：橋本 博行
I 研究活動			
1 研究課題：給食施設等での食物アレルギー対応食への食物アレルゲンの混入防止に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	橋本博行, 吉光真人, 清田恭平. ボウルの材質 3 種類における小麦アレルゲン残留性の比較. 日本家政学会誌. 70(11),756-761 (2019)		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C) 課題番号 18K02266 給食施設での粉体食物アレルゲンの飛散特性の解析と混入防止対策 2018-2020年度		
II 教育活動			
1 担当科目：食品学（食栄、昼、前期、1）、食品学実験（食栄、昼、前期、1）、食品衛生学Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、食品衛生学Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、食品学衛生学実験（食栄、昼、後期、1）、食品の機能（食栄、昼、後期、2）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	クラス担任（食栄1, 2年次生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）、食栄学生編入学指導（食栄2年生）		
教育上の工夫	<p>食品学（食栄、昼、前期、1） 当日の講義範囲の教科書の章の重要項目と最低限理解し暗記すべき項目をまとめた授業プリントと、講義内容を理解するために必要な化学等の基礎知識をまとめた参考プリントを配布している。当日の講義概要の解説→基礎知識→重要事項の解説→キーワードの暗記→講義のまとめの順で講義を進めた。暗記が必要なカタカナ用語は、語呂合わせ等も活用しながら、授業中に暗記してもらおうようにした。また、授業アンケートを実施し学生の理解度を確認するとともに、学生からの質問については、次の講義で全員に解説するようにしている。</p> <p>食品衛生学Ⅰ（食栄、昼、前期、1） 当日の講義範囲の教科書の章の重要項目と最低限理解し暗記すべき項目をまとめた授業プリントと、当日の講義内容に関連した食中毒事件の概要をまとめたプリントを配布している。授業の最初に、実際に起こった食中毒事件を解説し、当日の講義内容と関連付けることにより、興味を引くとともに理解が深まると考えている。</p> <p>食品学実験（食栄、昼、前期、1） 化学実験の安全管理の方法や実験の手法を模擬実験で練習を繰り返した後、実験を行うようにした。食品学の講義内容に相当する実験項目を選んで実験を行うことにより食品学の重要項目について実験を通じて理解を深めてもらうようにした。</p> <p>食品衛生学Ⅱ（食栄、昼、後期、1） 食品衛生学Ⅰでの学習を基礎として、食品衛生に関わる内容全般について解説した。給食提供時の安全管理で重要な、大量調理施設衛生管理マニュアルについて、具体的な食中毒防止手法の意味を理解し行動できるように解説した。</p> <p>食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1） 食品衛生学Ⅰで学習した食品衛生学の知識を深めるために、その内容を実験で経験してもらった。実験内容は、微生物実験と理化学実験を行った。実験で使用する食品試料は、リスクが想定される試料を選定し、リスクが把握できるように心がけた。</p> <p>食品の機能（食栄、昼、後期、2） 食品中に含まれる、生体調節機能を持つ食品成分について解説した。特に、代表的な疾病の成り立ちについて、図示を含めた講義プリントを作成してわかりやすく解説し、食品成分の疾病予防効果が理解できるように配慮した。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） 小麦粉バターの洗浄時のスポンジたわしへの付着性と、洗浄後のスポンジたわしの再使時のボウル汚染の実験を行った。また、スキムミルク、粉ミルク、小麦粉、きな粉、そしてそば粉の落下時の飛散性を確認した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本アレルギー学会、日本農芸化学会、日本食品衛生学会、日本家政学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	出前講座「ビタミンとミネラルの話」聖母の家学園高等部専攻科 2020年2月17日 JA三重中央ベジマルファクトリーとの商品開発会議		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

3 一言アピール

学校給食等で提供されている食物アレルギー対応食について、意図しない食物アレルゲンの混入防止策に関する研究を行っています。これまで、給食用食器の卵アレルゲンの付着性比較やふるい操作時の小麦粉の飛散性に関する研究を行ってきました。現在は、小麦粉以外の粉体食物アレルゲンの飛散性や洗浄除去しにくい小麦タンパク質の付着性について研究を行っています。食物アレルギー対応食の調理時の混入リスクの評価や混入防止策の作成を行なえるように研究を進めています。

(研究テーマの応用例 : 食物アレルギー対応食の調理時の衛生管理)

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科生活科学専攻	職名：教授	氏名：小野寺 一成
I 研究活動		
1 研究課題：地方都市における持続可能な集約型都市構造、多核ネットワーク型都市構造、行政計画体系における広域都市計画、都市農村計画の意義、都市再生手法、都市拠点デザイン、住宅団地再生のあり方、住民参加と都市計画理論の共存、住民参加型計画の効果		
2 研究活動実績		
著書		
論文	木下なつ子、小野寺一成 「自治体新電力会社の役割と地域内経済循環についての考察 ―山陰地方の事例から―」 三重短期大学生活科学科紀要 第68号 2020年3月 pp.1～8 小野寺一成 「立地条件と入居者状況にみる郊外住宅団地に関する一考察 ―四日市市の郊外住宅団地を事例として―」 日本建築学会 住宅系研究論文報告会論文集14 2019年12月 pp.21.3～220（査読有り）	
その他		
学会等報告	小野寺一成 「地方都市における立地適正化計画の拠点配置と対象区域に関する考察」 日本建築学会大会（北陸）都市計画部門 パネルディスカッション「『立地適正化計画』の適正化計画―非誘導区域のあり方―」 2019年9月3日 pp.41～44	
共同研究 助成研究	地域問題研究所 研究員 テーマ「人口減少下での集約型都市構造再編と拠点形成に向けた研究 ―地方都市における実践と課題―」2019年度	
II 教育活動		
1 担当科目：「まちづくり設計Ⅰ」（生活、昼、前期、1）、「住環境計画」（生活、昼、前期、2）、「地域政策論」（食栄・生活・法Ⅰ、昼、前期、2）、「自治体行政特論」（食栄・生活・法Ⅰ、昼、前期、2）、「まちづくり設計Ⅱ」（生活、昼、後期、1）、「地域環境学」（生活、昼、後期、2）、「都市計画論」（生活、法Ⅰ、昼、後期、2）、「居住環境特別演習」（生活科学科：通年）、生活科学概論（基礎・昼・前期・2）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	都市計画ゼミにて、津市 一身田寺内町の館及び寺内町の視察(校外演習v.1)、津市 津城跡及び旧伊勢街道大門商店街の視察(校外演習v.2)、松阪城址及び歴史的町並み地区の視察(校外演習v.3)、伊賀上野城と歴史的町並みが残る城下町の視察(校外演習v.4)の実施	
学内教育活動 (その他)	生活科学1年次クラス担任、オフィスアワー 前期：水曜日13:30～15:00、後期：水曜日14:00～15:30、「居住環境特別演習」のゼミ生における卒業研究及び発表会の指導及び「2019年度都市計画ゼミ卒業研究（論文・設計）集」の作成・編集。また、2019年度 津市商店街にぎわい創出活動支援業務事業 中心市街地活性化 市民対話サロン参加、インバウンド効果に向けた都市計画ゼミ卒業設計として、下記（地域連携事業欄記載）の2作品をまとめて地域連携センターへ提出。	
教育上の工夫	<p>第1部前期「まちづくり設計Ⅰ」（生活、昼、前期、1） 今年度の「総合評価」は5.30であり、昨年度の総合評価5.43を若干下回っている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポートの返却」の評価が5.52（昨年度6.00）と高い。次に「わかりやすさ」の評価項目が5.41（昨年度5.30）と高く、「教材」が5.37（昨年度5.43）、「板書・話し方、教員の熱意、知的刺激」が5.33（昨年度5.30、5.35、5.39）と高い。設計を指導する授業のため、エスキスをしないながら進めたことや講習会を行いながら進めたことから評価が高いと思われる。次いで「学生の質問や意見」5.30（昨年度5.30）、「学生の興味を引く工夫」5.30（昨年度5.36）の評価項目が高くなっている。今年度の回答者数は27名と昨年度の23名を上回っていたが昨年度に比べ低評価となった。この傾向は一昨年度19名で総合評価5.68と比較しても、履修者数が増えると総合評価が低くなる傾向にあるといえる。グループ課題を主としており、履修申告書が多くなったことから、6グループの指導を行うことになったことが原因かもしれない。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし、個別的な指導を心掛けていきたい。しかしながら、当授業は1単位1時限であることから、履修申告者がこれ以上増えてきた場合は、時間コマ数を増やすなどを今後の検討課題としたい。</p> <p>第1部前期「住環境計画」（生活、昼、前期、2） 今年度の「総合評価」は5.05であり、昨年度の総合評価5.04より若干上回っている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.33（昨年度5.56）と高い。次いで、「教員の熱意」が共に5.20（昨年度5.11）、「学生の質問や意見」5.17（昨年度5.04）、「板書・話し方」5.15（昨年度5.13）、「教材」5.07（昨年度5.00）、「わかりやすさ」5.05（昨年度5.08）と続いている。項目別にみても昨年度を上回っている項目が多い。講義に関しては、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしている。授業評価アンケートのコメントを見ると「プリントの数が多すぎる。どれが重要なかわからない」との意見もあり、的を射た授業を心掛けるが、講義を聞いてどこが重要なかを理解できることが、一番必要なことだと考えている。なお、昨年度「プリントはカラーの方が絶対いい。」との意見があり、昨年度の途中、デモで使用したカラー印刷機の恒常的な設置を事務局にお願いしたいところである。</p> <p>第1部前期「地域政策論」（食栄・生活・法Ⅰ、昼、前期、2） 今年度の「総合評価」は5.09であり、昨年度の総合評価5.10を若干下回った。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.57（昨年度5.77）と高い。次いで、「教員の熱意」の評価項目が5.24（昨年度5.32）、「板書・話し方」が5.19（昨年度5.07）、「教材」が5.15（昨年度5.33）、「学生の質問や意見」が5.12（昨年度5.30）と高くなっている。また、「わかりやすさ」の評価が5.09（昨年度4.93）、「良好な学習環境」が5.08（昨年度5.05）という結果となった。項目別にみても全体の評価は全て5.00を超えている。今後も、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしていきたい。授業評価アンケートのコメントを見ると「地域政策について、取り組みや現状がわかり、それによってどのような変化があったのかもわかったため、とても興味深かった。」「すごく楽しく授業が受けられました。」との意見もあった。なお、昨年度「途中からカラー印刷になり非常に見やすかったです。初めて知る内容が結構ありました。地域の活性化に役立てたいです。」との意見があることから、昨年度デモで使用したカラー印刷機の恒常的な設置を事務局にお願いしたいところである。</p> <p>第1部前期「自治体行政特論」（食栄・生活・法Ⅰ、前期、2） 今年度の「総合評価」は4.72であり、昨年度の総合評価5.25を下回っている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「教材」の評価項目が5.09（昨年度5.38）、次いで、「板書・話し方」5.04（昨年度5.36）、「教員の熱意」が4.93（昨年度5.34）となっている。今年度の履修申告者は131名であり、昨年度の78名から大幅に増加している（一昨年度の履修者20～30名程度）。なお、この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義であることから、履修申告者の増加は好ましいことと考えるが、どの講義も履修者が増加すると総合評価が下がる傾向にあることが課題である。授業評価アンケートのコメントを見ると「津市の方々からためになる話を聞いた。レポートの量が多い。」との意見があり、来年度は履修ノートに記す文字数を工夫したい。また、「津市の行政について</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

<p>て知ることができた。」「多方面からいろいろとお話を聞ける授業構成は良かった。他県出身だからこそ津市のことが学べて助かった。」「市議会傍聴という貴重な体験ができた。」などの意見があった。</p>	
<p>第1部後期「まちづくり設計Ⅱ」（生活、昼、後期、1）</p> <p>今年度の「総合評価」は5.42であり、昨年度の総合評価5.29より高い値となっている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポートの返却」が、5.45（昨年度5.33）と高い。設計を指導する授業のため、エスキーズを行ないながら進めたこと、中間提出や最終提出の講評会を行ったことから評価が高いと考えられる。次いでその他の項目は、何と「全ての項目」で5.42となっている。ちなみに昨年度は、「教員の熱意」（昨年度5.52）、次いで「教材」の評価項目（昨年度5.43）であり、「学生の興味を引く工夫」と「知的刺激」が共に（昨年度5.24）となっていた。昨年度より総じて評価は高くなっていることから、今年度低くなった項目に注意しながら来年度の講義に臨みたい。</p> <p>なお、今年度の受講生は21名と昨年度の25名から若干減少した。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし個別的な指導を心掛けていきたいが、例年、受講者数が多いと評価が下がる傾向にある。2年生後期の建築士を目指した授業であることから、2年生前期講義のまちづくり設計Ⅰ履修者に限るなどの適正な受講者数も課題としたい。なお、本年度は、回収数が少ないことが気になることから、来年度は本アンケートへの記載を促したい。</p>	
<p>第1部後期「地域環境学」（生活、昼、後期、2）</p> <p>今年度の「総合評価」は5.23であり、昨年度の総合評価5.51よりやや低くなっている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、今年度は「レポート等の返却」の評価項目が5.70（昨年度5.89）、「学生の質問や意見」が5.42（昨年度5.74）と高い。これは毎回の小課題の質問に答えるほか、中間試験の採点を返却したことと思われる。次いで「教材」と「教員の熱意」の評価項目が5.33（昨年度5.40と5.57）となっている。一方、「学生の興味を引く工夫」の評価が5.13（昨年度5.46）、「知的刺激」が5.06（昨年度5.59）と低くなっている。また、「良好な学習環境」5.19（昨年度5.37）に関しては、今年度は66名の受講数であったことから、大教室での講義となったことからかもしれない。やはり、受講人数が多くなったり、大教室で講義を行った場合、評価が下がる傾向にある。</p> <p>今後もパワーポイントやDVD等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、「学生の興味を引く工夫」を施し、最新の情報などを取り入れ、「知的興味」を持てるようにしたい。</p>	
<p>第1部後期「都市計画論」（生活、法Ⅰ、昼、後期、2）</p> <p>今年度の総合評価は5.33であり、昨年度の総合評価5.47よりやや低くなった。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、今年度は「レポート等の返却」の評価項目が5.74（昨年度5.67）と高い。これは、毎回の小課題の質問に答えるほか、中間試験の採点を返却したことと思われる。次いで、「教員の熱意」の評価項目が5.47（昨年度5.50）、「良好な学習環境」が5.45（昨年度5.43）と高い。次いで「板書・話し方」が5.43（昨年度5.60）、「学生の質問や意見」5.39（昨年度5.50）、「教材」、「知的刺激」が共に5.37（昨年度5.53、5.63）となっている。</p> <p>昨年度より全体的に低い評価は、履修学生が昨年度41名から、57名と大幅に増えたことも原因と考えられる。ちなみに一昨々年度の履修学生40名の時の総合評価は5.55と高い。小教室における適正な履修数もあるのかもしれない。今後も、新しい情報を加えるとともに「わかりやすさ」に努め、パワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用しながら、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて「興味を持てるような工夫」をしたい。やはり、履修学生が増えた時の評価が課題となる。</p>	
<p>第1部通年「居住環境特別演習」（生活科学科：通年）</p> <p>都市計画ゼミのねらいは、まちづくり及び都市計画に関するテーマについてグループ等で研究を行い、研究過程で調査、課題抽出、解決方法、考察等の検討、研究報告のとりまとめ、表現の方法等を体系的に学び、最終的にまちづくり及び都市計画について理解を深め考察することを狙いとしている。調査や視察等を通じ机上では得られない社会的な課題を実感し、これに対する自らの考えをまとめ、発表、プレゼンテーションでできることが大切であると考えている。</p> <p>授業計画としては、まちづくり及び都市計画さらには地域の公共施設等の今日的な課題等を題材に研究テーマを決め、資料調査及び現地調査等に基づく分析による結果を導き、各自の考察を行い、卒業研究論文または卒業研究設計として取りまとめることとしている。前期は輪講を行いながら各自研究テーマを決め、夏休みに調査を行い、後期から卒業研究報告を取りまとめ、卒業研究（卒業論文・卒業設計）発表会にて各自発表を行っている。ゼミ生のまちや都市への興味の一環として、一身田寺内町、津城及び大門商店街、松阪城址及び歴史的町並み地区、及び、伊賀上野城と歴史的町並みが残る城下町の視察を行った。</p>	
<p>第1部前期「生活科学概論」（基礎・昼・前期・2）1コマ</p> <p>生活科学科の各教員が自身の専門分野について講義を行うオムニバス形式となっており、その内一講義を担当している。食物栄養学専攻、生活福祉・心理コース、居住環境コースの学生全員に興味を持ってもらうため、「住民参加とコミュニティ」というソフトなテーマで講義を行っている。また、それぞれの目指す資格、栄養士、社会福祉士、建築士においても、ただ資格を取得するだけでなく、どんな栄養士、社会福祉士、建築士になるのが大切であることを示唆している。講義は、パワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用し、最後に感想や意見等をA5版用紙に記載させるなど、興味を持てるような工夫をしている。</p>	
<p>Ⅲ 学会等及び社会における主な活動</p>	
<p>1 所属学会：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本都市計画学会</p>	
<p>2 社会活動実績</p>	
地域連携事業	2019年度 津市商店街にぎわい創出活動支援業務事業 中心市街地活性化 市民対話サロン参加、インバウンド効果に向けた都市計画ゼミ卒業設計、「『ほっとするまち一身田』～寺内町街並み散策視点場空間整備計画～」、「地方都市における温泉街の再生ルネッサンス～橿原温泉スバリゾート化計画～」2作品制作
学外審議会委員等	一般社団法人建築学会 都市計画委員会 地方都市拠点デザイン小委員会委員（2019.4～）、一般社団法人建築学会 東海支部三重支所役員（運営委員書記担当）（2015.8～）、一般社団法人建築学会 東海支部 都市計画委員会幹事（2019.4～）、2019年度 三重県事業認定審議会委員（都市計画）（2015～）、2019年度 津市建築審査会委員（都市計画）（2014～）、2019年度津市農業振興対策協議会委員（会長）（2014～）、2019年度 津市福祉有償運送運営協議会委員（会長）（2014～）、2019年度四日市市開発審査会委員（都市計画・建築）（2016～）
学外講演会講師等	
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
<p>3 一言アピール</p> <p>地方都市における持続可能な集約型都市構造の検討、広域都市計画、都市農村計画、都市再生手法、都市拠点デザイン、住宅団地再生のあり方、住民参加のまちづくり、人口減少時代の都市計画など、今後の都市計画の課題に取り組んでいきたいと考えています。（研究テーマの応用例：持続可能な多核ネットワーク型都市構造の検討、広域都市計画の検討、都市農村計画の検討、老朽化した公共住宅団地等の建替え検討、住民参加のまちづくり）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：准教授	氏名：阿部 稚里
I 研究活動			
1 研究課題：和食に関する研究、栄養教育の有効性に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	阿部稚里、今井具子、瀬崎彩也子、宮本恵子、川瀬文哉、白井禎朗、眞田正世、位田文香、加藤匠、下方浩史. (2019). 乳製品と乳癌との関連—23年間の縦断的国際比較研究. 名古屋栄養科学雑誌 5, 23-29. 阿部稚里、阪野朋子. (2019). 陸上部男子大学生の習慣的な栄養素等摂取量および食品群別摂取量の現状と課題. 食生活研究 40(1), 68-78. その他共著者として、英文1報、和文2報.		
その他			
学会等報告	阿部 稚里, 宮本 恵子, 今井 具子, 瀬崎 彩也子, 川瀬 文哉, 白井 禎朗, 眞田 正世, 位田 文香, 加藤 匠, 下方 浩史 「カルシウム摂取量と虚血性心疾患の発症率および死亡率との関連—27年間の国際比較研究」 日本未病システム学会学術総会（名古屋）2019年10月 Chisato Abe, Keiko Miyamoto, Tomoko Imai, Ayako Sezaki, Fumiya Kawase, Yoshiro Shirai, Ayaka Fukaya, Takumi Kato, Masayo Sanada, Hiroshi Shimokata 「The association between dairy products intake and bone mineral density for 23years in the world by global database」 The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, 2019.10 阿部稚里、宮本恵子、今井具子、瀬崎彩也子、川瀬文哉、白井禎朗、深谷文香、加藤匠、眞田正世、下方浩史 「乳製品摂取量と骨密度の関連—23年間の国際データによる検討—」 第66回日本栄養改善学会学術総会（富山）、2019年9月 阿部稚里 「食事バランスガイドの注意点における壮年期男女の比較」 第73回 日本栄養・食糧学会大会（静岡）、2019年5月 その他共同発表者として、国際学会8報、国内学会13報		
共同研究 助成研究	一般社団法人日本調理科学会 特別研究 『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』 三重県研究調査 家庭内環境を考慮した女性3世代の食習慣と健康状態に関する栄養疫学的横断研究 名古屋学芸大学健康・栄養研究所：客員研究員		
II 教育活動			
1 担当科目：栄養教育論Ⅰ（食栄、昼、前期、2）、栄養教育論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）：後期は在外研修のため担当科目無し			
2 教育活動実績			
課外活動指導	K-POP完コピサークル顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）。オフィスアワーを実施し、個別相談に応じた。		
教育上の工夫	<p>栄養教育論Ⅰ（食栄、昼、前期、2）栄養士免許必須科目であり、栄養士として必要な定義、歴史、目的、対象、場、法的根拠および栄養士が教育を行うための方法論を教える教科である。1年生の前期という、栄養士に関連する専門知識をほとんど持たない中、この幅広い範囲を学ぼうと学生はよく頑張ったと思う。教科内容である行動目標シートを用い、学生の教育方法への理解を深めるのに努めた。</p> <p>栄養教育論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）個人に対する栄養教育を行うために、カウンセリングの手法を使った話し方、媒体作成、栄養教育の実施および評価を行った。一通り自分自身で行うことで、学生は非常に成長したと思う。自主的な学習を行うためのサポートを行った。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本家政学会、日本栄養・食糧学会、日本調理科学会、日本未病学会、日本ビタミン学会、ビタミンE研究会、ゴマ科学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	ベジマルファクトリーレシピ開発へのアドバイザー 「バランスよく食べよう！」（講演）、津市税務署、同職員、2019年5月		
学外審議会委員等	日本栄養・食糧学会中部支部参与、日本栄養改善学会評議員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>栄養教育とは、対象とする個人や集団のQuality of Life (QOL) を高めるために、教育手段を用いて好ましい食行動の実践と習慣化を促すために、具体的に働きかけることです。そこで、食行動のよりよい変容を促すために、有効な栄養教育法について検討しています。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：北村 香織
I 研究活動			
1 研究課題：障害のある人に対する地域生活支援、社会福祉政策史（医療政策史含む）			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「貧困化する女性と働き方改革」『三重短期大学生活科学科紀要』No. 68。		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	2019年度 三重短期大学地域問題研究所研究員		
II 教育活動			
1 担当科目 障害者福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉発達史（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術演習Ⅰ（SS、昼、後期、4）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3）、社会福祉基礎演習（生活、昼、後期、2）、演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年生クラス担任（前期）、オフィシアワー（火曜日：4限）、卒論作成指導、4年制大学への編入希望者に対し、小論文及び面接対策を行った。また、津市内及び大阪市においてフィールドワークを行った。夏には、愛媛大学、神戸大学、立命館大学、龍谷大学、和歌山大学とのゼミ合同合宿にゼミ生を帯同した。		
教育上の工夫	<p>障害者福祉論（生活、昼、前期、2）</p> <p>映像や資料を積極的に利用し、社会福祉に関わる問題について具体的なイメージをもちながら、概念を理解してもらえるように努めています。また、講義の流れを予め学生に周知することで、講義に集中できるように工夫をしています。</p> <p>社会福祉発達史（生活、昼、前期、2）</p> <p>歴史を知るためにはまず、「社会福祉」の概要をつかまなければなりません。1年生の受講生も一定数いるため、歴史を扱う前に社会福祉の概要についての講義も行うなど工夫をしています。また、視覚的に理解できるよう、資料に工夫をしたり、その時代に起こった世界的なできごと（中学高校で習ったもの）も取り上げながら話を進めることで、少しでも物事が繋がればと考えています。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）</p> <p>初めて学外で実習を行うにあたって、実習目標に基づいた内容になっているか、学生の精神的状況の把握、施設の実習担当者との意見交換及び学生への実地指導などを行った。円滑に実習を進めて行くために、実際に実習巡回で施設を訪問し、学生だけではなく実習担当者とのコミュニケーションに力を注ぐことで学生及び施設の状況把握に努めています。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3）</p> <p>実習先についての問題関心を深めるとともに、社会福祉の視点を持ち、実習先の利用者・職員の方々との良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行いました。特に、実習課題の設定に関しては講義時間だけではなく課外でも多くの時間を割いて指導を行いました。</p> <p>社会福祉援助技術演習Ⅰ（生活、昼、後期、4）</p> <p>社会福祉援助技術総論の講義における理論学習を実践的に応用できるように、講義の内容と連動して演習に臨めるためのプログラム作成に努めました。また、演習のふりかえり作業を毎回レポート化できるようにして、そのフィードバックについても積極的に行うようにしました。</p> <p>演習（生活、昼、通年、4）</p> <p>ゼミ生の中にはそれぞれ経済的・身体的・精神的問題を抱えた学生が存在するが、それぞれがその存在を認め合いながら、互いに意見を交換できる様、そしてそれを主体的に行えるように雰囲気づくりを含めて工夫を重ねています。卒業論文指導はもちろんのこと、就職・編入学の書類の指導についても行いました。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本社会福祉学会、障害学会、日本社会福祉士会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員、三重県発達障害者支援地域協議会委員、三重県障害者給付費等及び障害児通所給付費等不服審査会委員、社会福祉法人鈴風会評議員、社会福祉法人風の丘評議員、三重県障がい者虐待防止対策支援事業に伴う専門家チーム構成員、亀山市新庁舎整備基本計画等検討委員会委員、三重県とこわか国体・三重とこわか大会実行委員会全国障害者スポーツ大会専門委員会ユニバーサルデザイン部会委員		
学外講演会講師等	令和元年度 公正採用選考研修会講師「障がいのある人が働くということ～魅力的な職場を目指して」 2019年8月27日（三重県四日市市庁舎大会議室）、2019年9月9日（三重県庁講堂） 四日市市民塾講演「貧困化する女性たち 一状況、背景、改善の方途」2019年11月30日		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
障がいのある人が社会生活を送る時に障壁となるものは具体的に何なのかを分析しながら、皆が生きやすい社会の仕組みについて考えています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：武田 誠一
I 研究活動			
1 研究課題：在宅生活を支援する地域包括ケアの研究、介護支援専門員のケアマネジメント過程の研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	単著三重県内各市の「自立支援型」地域ケア会議の実施について—各市の「介護保険事業計画」の分析—『地研年報』(24) 95-102、2019年9月。		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	地域問題研究所 研究員 テーマ「三重県における地域包括ケア体制の構築に寄与する「自立支援型」地域ケア会議のあり方に関する基礎研究」		
II 教育活動			
1 担当科目：社会福祉援助技術総論（生活、昼、前期、4）、医療福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術論Ⅰ（生活、昼、後期、4）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)			
教育上の工夫	<p>医療福祉論 専門的な内容であったが、それが学生の知的刺激に結びついているのであれば、その期待に応えられるように、今後も講義で取り上げる内容を更にブラッシュアップしていきたい。 今後は、多様なメディアを活用した授業展開を検討したい。</p> <p>社会福祉援助技術総論 ソーシャルワークを理解できるようにグループワークなどを取り入れた。また、福祉問題に関心が向くように新聞記事レポートを実施した。他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。</p> <p>社会福祉援助技術論Ⅰ 少人数であるため、グループワークを多用した、また、放送番組センター収録番組を視聴覚教材として用いた、それらの教材に対する評価が結果に反映されていると考える。 他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。</p> <p>福祉心理基礎演習 新聞レポートを活用し、意見発表を積極的に行えるように工夫を行った。</p> <p>福祉心理演習 卒業論文の完成に向け、個別指導と全体での指導を合わせ実施した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本医療・病院管理学会、日本プライマリ・ケア連合学会、社会政策学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	<p>出前講座 テーマ「援助のキホーン—専門職の援助観を考える—」 2019年6月12日 主催 三重県障害者小規模福祉施設協議会 等他2件 政策研修 テーマ「地域包括支援センターにおける「地域課題の政策提言」に関する研修」 参加者 松阪市職員、鈴鹿市職員、津市社協職員、津市職員</p>		
学外審議会委員等	津市介護保険事業等検討委員 2016年10月～、松阪市 福祉有償運送運営協議会委員 2017年4月～、多気郡 福祉有償運送運営協議会委員 2017年10月～、四日市市障害者差別解消支援地域協議会委員 2018年3月～		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	皇學館大学現代日本社会学部「公的扶助論」、愛知大学地域政策学部「社会福祉政策論」、日本こども福祉専門学校通信教育部社会福祉士学科「保健医療サービス」		
3 一言アピール			
<p>福祉、介護、医療での支援のあり方について、関心を持ち研究しております。 専門職として職場や地域で自己研鑽を目指す方と協働していければと考えております。 (研究テーマの応用例：ケアプラン（居宅介護支援計画）の検討・学習会、地域包括ケアのための社会資源開発の研究、地域ケア会議の円滑な運営に関する研究)</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：准教授	氏名：駒田 亜衣
I 研究活動			
1 研究課題：特定健診・特定保健指導に関する研究 県民健康・栄養調査の評価に関する研究			
2 研究活動実績			
著書	『NEXT公衆栄養学概論 第2版』講談社（共著）（2020.3）		
論文	駒田亜衣、中澤菜穂、山本涼乃、清田桃華、村井聖奈、館美香、木下なつこ「特定保健指導実施者の10年間の推移」三重短期大学生活科学研究会紀要, No.68, pp9-16（2020.3）		
その他	平成30年度三重短期大学 共同研究報告書「平成29年度 特定健康診査・特定保健指導の解析」（2019.7）		
学会等報告	駒田亜衣「給食管理実習における自覚症調査」第66回日本栄養改善学会総会、2019.9（富山市） 大槻誠、若杉悠佑、加藤俊宏、長尾理恵、駒田亜衣、芝田登美子「中壮年期における食品群・栄養素摂取量とロコモティブシンドロームとの関連」第78回日本公衆衛生学会、2019.10（高知市）		
共同研究 助成研究	共同研究「特定健康診査・特定保健指導の解析」（津市保険医療助成課） 2019年度地域問題研究所研究員「三重県と和歌山県の南部に伝わる郷土料理の一考察～「馴れずし」を中心に特徴とその背景～」 やずや食と健康研究所2019年度助成研究「ソーシャルメディアを活用した若年層の健康意識と食生活の向上に関する介入研究」		
II 教育活動			
1 担当科目 調理学（食栄、昼、前期、2）、調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、給食計画実務論（食栄、昼、後期、2）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）、給食計画実務論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、給食計画実務論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	茶道部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）、食栄学生編入学指導（食栄2年生）		
教育上の工夫	調理学（食栄、昼、前期、2） 食品や使用する器具の写真を出来る限りスライド等で示し、理解しやすいように工夫している。また、「調理学実習Ⅰ」を担当いただいている非常勤講師と連携をとり、実習と講義がリンクするように調整している。		
	調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1） 前期の同実習Ⅰからの応用となるように、段階を考えたスケジュールにしている。また、献立作成の機会を設け、実際に自分の献立を取り入れて調理できるよう工夫している。		
	給食計画実務論（食栄、昼、後期、2） 大量調理や校外実習に必要な知識を身につけることを目的としている。献立作成に加え、発注や原価分析などの練習も取り入れるようにしている。		
	校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1） 栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。特に、実習先ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別に対応した。		
	給食計画実務論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1） 同講義をもとに大量調理を実践し、栄養士業務の主となる給食の運営を学ぶことを目的としている。献立作成、発注、検収、衛生管理、帳票類の作成など、実習を通して給食運営の一連の流れを把握できるよう工夫している。		
	特別演習（食栄、昼、通年、4） 公衆栄養学的内容で実施した。子どもの身体状況と食事摂取状況との関連の解析や、特定健診結果の解析、三重県の食の状況調査解析などを行い、将来的に栄養士として働くうえで知っておくべき内容を研究テーマとした。データのまとめ方や集計手法など、パソコン操作についても積極的に指導を行った。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本病態栄養学会、日本公衆衛生学会、日本ヒューマンケア科学学会、日本家政学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「地域連携カフェHONOBUONO」の運営（献立計画・給食運営） 「世界の料理講座(調理実習)」の開催 津市国際交流協会		
学外審議会委員等	津市栄養士連絡会委員、津地域栄養管理ネットワーク研究会委員		
学外講演会講師等	津市ヘルスメイトリーダー研修会講師(津市食生活改善推進協議会)「おいしく食べる工夫」(2019年9月)		
その他の社会活動	三重短期大学 出前講座「三重県の食状況について」（東海農政局 消費・安全部、消費生活課、三重県総合文化センター）（R1(2019)年12月）		
他大学非常勤講師	鈴鹿短期大学非常勤講師「公衆栄養学」担当		

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

3 一言アピール

食習慣や生活スタイルは地域ごとに特徴があり、それらを客観的に明らかにすることによって、その土地や環境に合った健康増進や生活習慣予防の方策が立てられます。有効な方策を見出すため、特定健康診査・特定保健指導や県民健康栄養調査の結果をいろいろな観点から探り、性別、年代、地域だけでなく、普段の生活習慣による違いなど、健康増進に役立つ知見を得ることを目的に研究を進めています。

（研究テーマの応用例：

有効な特定保健指導に関する研究、栄養摂取量と生活習慣との関連に関する研究、地域における食生活の問題点と課題）

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：笠 浩一朗
I 研究活動			
1 研究課題：自然言語処理、コーパス言語学			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	蔡仲熙, 笠浩一朗, 松原茂樹：「翻訳との比較による同時通訳における順送り方略の活用の分析」信学技報, vol. 119, no. 484, TL2019-56, pp. 7-11, 2019年3月		
学会等報告	蔡仲熙, 笠浩一朗, 松原茂樹：「翻訳文との比較に基づく同時通訳の訳出方略に関する研究」日本通訳翻訳学会第20回年次大会, 東京, 2019年9月		
共同研究	科研費 基盤研究 (C) 「同時通訳の訳出方略の分析のための柔軟な対訳対応付け手法の開発」(代表者) (課題番号: 17K02765)		
助成研究	科研費 基盤研究 (B) 通訳方略の体系化と文構造の逐次解析に基づく講演音声の同時通訳 (分担者)		
II 教育活動			
1 担当科目：情報処理実習Ⅰ(共通、夜1クラス、前期、1)、情報処理実習Ⅰ(共通、昼2クラス、後期、1)、数理科学(生活、昼、前期、2)、情報と社会(共通、昼、前期、2)、情報と科学(共通、昼、後期、2)、情報と科学(共通、夜、後期、2)、居住環境特別演習(生活、昼、通年、4)			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ダンス部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任(居住環境コース)、4年制大学への編入学を目指す学生への数学、情報等の個別指導を実施した。		
教育上の工夫	<p>情報処理実習Ⅰ(共通、夜、前期、1) 実習は、スライドで説明をしながら進めるが、学生のPC活用力のレベル差が大きいため、進度が早い学生や遅い学生は各自が教科書を参考にすることで、自分に適したスピードで進められるように配慮した。学生とのコミュニケーションを密にして、より学生の声を授業に反映させた。</p> <p>情報処理実習Ⅱ(共通、昼2クラス、後期、1) 情報処理実習Ⅱは、情報処理実習Ⅰで基礎的な能力を身に付けている学生が受講しているため、学生によるレベル差は情報処理実習Ⅰほど大きくないため、比較的難易度が高い課題に対しても、学生が十分に対応できていた。学生によっては物足りないと感じる学生もいたため、追加課題を出したり、個々のレベルの合わせたアドバイスをしたりするなどして対応した。</p> <p>数理科学(生活、昼、前期、2) 学生間において知識、及び、理解力に差があり、すべての学生に対して適した講義内容、講義レベルを合わせることは困難なので、講義では比較的理解しやすい内容を説明し、より深い内容を知りたい学生、及び、講義内で理解できなかった学生に対しては講義時間外の個別指導で対応するようにした。講義期間外には、講義内容に関連した内容の勉強会も2日間開催した。</p> <p>情報と社会(共通、昼、前期、2)(共通、夜、後期、2) 配布する資料をカラーで作成・印刷することで、資料を見やすくした。講義中盤の自然言語処理に関する内容、及び、講義後半の情報システムに関する内容については、少し理解できていない学生が多いようなので、具体的な事例を紹介することで、理解しやすい内容になるように工夫した。</p> <p>情報と科学(共通、昼、後期、2) 受講生の人数が多いため、講義内で理解度を試す小テストやプログラミングの実習などにおいて、細かい指導ができないため、講義での全体説明をよりわかりやすくなるように努めた。</p> <p>居住環境特別演習(生活、昼、通年、4) 演習では、学生の興味がある情報処理を活用した研究(プロジェクト)に取り組んでおり、2019年度は三重短期大学のLINEスタンプ制作と子供向けのプログラミング講座の開催などを行った。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：電子情報通信学会、言語処理学会、情報処理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	小中学生向けのプログラミング講座の開催(2020年1月)		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>プロの同時通訳者の訳出メカニズムの解明のため、大規模に収集した同時通訳者の音声言語データを、統計的な手法で解析しています。</p> <p>また、津市民及び三重県民への地域貢献への取り組みとして、子供向けのプログラミング講座を定期的に開催していく予定です。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：高橋 彩
I 研究活動			
1 研究課題：青年期のアイデンティティ形成、親子関係、道徳性			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	どうしてルール違反者を見ると腹が立つのか：ネット上に見る道徳的な怒り 三重短期大学地域問題研究所 地研通信 第135号 2019.8.5		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：心理学概論（生活・昼・前期・2）、発達心理学（生活・昼・前期・2）、心理学基礎実験（生活・昼・前期・2）、福祉心理演習（生活・昼・通年・4）、発達と学習（共通・昼・後期・2）、福祉心理基礎演習（生活・昼・後期・2）、心理学（共通・昼・後期・2）、心理学（共通・夜・後期・2）、心理学研究法（生活・昼・後期・2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動（その他）	1年生クラス担任（前期）、オフィスアワー（火曜日）、卒論作成指導、四年制大学への編入を希望する学生に、小論文の書き方指導、面接指導を個別に実施した。		
教育上の工夫	<p>心理学概論（生活・昼・前期・2）テキストを使用し、テキストにない図や写真をパワーポイントで提示することで理解が深まるようにした。小課題や感想、質問を書くことで、学生が自分自身の体験と教科書の知識との関連を意識できるように心がけた。</p> <p>発達心理学（生活・昼・前期・2）テキストを使用し、板書の代わりにパワーポイントを用いた。15回の授業で乳幼児期から高齢期まで解説した。適宜、DVDなど視聴覚資料を用いて、学生の興味や理解が深まるように工夫した。</p> <p>心理学基礎実験（生活・昼・前期・2）心理学実験の実験者と実験参加者の両方を体験しながら、データ収集、分析、レポート作成が身につくように、学生のペースに合わせた進度で授業計画を進めた。特に提出されたレポートの添削を個別に行い、レポートの基本的な書き方について習得できるようにした。</p> <p>発達と学習（共通・昼・後期・2）テキストは使用せず、毎回資料を配布しパワーポイントで解説する形で進めた。従来の教育心理学で扱う内容に加えて、認知発達、遺伝と環境、脳と発達など、人間の発達を考える上で重要なテーマを取り上げた。</p> <p>心理学（共通・昼・後期・2）テキストを使用し、テキストにない図や写真をパワーポイントで提示したり、DVDなど視聴覚資料を用いたりすることで理解が深まるようにした。また、学生の自己理解に役立つような心理学の尺度を紹介し解説した。</p> <p>心理学（共通・夜・後期・2）テキストを使用し、テキストにない図や写真をパワーポイントで提示したり、DVDなど視聴覚資料を用いたりすることで理解が深まるようにした。また、学生の自己理解に役立つような心理学の尺度を紹介し解説した。受講者が少なかったため、毎回の小課題や感想、質問については、コメントを入れて返却することができた。</p> <p>心理学研究法（生活・昼・後期・2）心理学の代表的な研究方法である、質問紙法、面接法、観察法を取り上げた。質問紙法などはグループで実際に質問項目を作ったり、面接法では面接者と面接協力者の両方を体験したりした。さらに簡単なレポートを書くことで、学生が心理学の研究とは何かというイメージがつかめるように工夫した。</p> <p>福祉心理基礎演習（生活・昼・後期・2）今年度は社会心理学のテキストから、各学生に担当を割り当て、読んでまとめたことを発表させた。また質疑応答を行い、全員がそのテーマについて考えたことを発表する機会をもてるようにした。編入希望者が複数いたため、社会心理学に関する英文1ページ分をみんなで英訳する機会も設けた。</p> <p>福祉心理演習（生活・昼・通年・4）前期は、1グループで1つの心理学の論文を読んで発表させた。論文から、仮説、結果、考察、今後の課題を読み取ることを目指した。前期の後半は、論文の検索の仕方を解説した後、各自が卒業論文として関心のあるテーマを発表し、グループでそのテーマに関する本や論文を集める作業を行った。後期は卒業論文のテーマに沿って各自の進捗を確認し指導した。12月中におよそ完成したものを提出できたため最終回には卒論発表会を行うことができた。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本発達心理学会、日本パーソナリティ心理学会、日本青年心理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	出前講座「自分はどんな性格なの？パーソナリティ心理学」、特別支援学校聖母の家学園、5月 ” 社会福祉法人白壽会北郊デイサービスセンター、11月		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	名古屋音楽大学「発達と学習の心理学A・B」、名古屋外国語大学「教育心理学」、大谷保育協会「発達心理学1・2」		
3 一言アピール 青年期の特徴である自律性について関心をもっています。青年の進路選択に親が果たす役割や、青年が親との関係の中で個人の自由をどのように概念化しているのかを明らかにしていきたいと思っています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：講師	氏名：相川 悠貴
I 研究活動			
1 研究課題：ラットを用いた運動と食餌制限の組み合わせが骨に及ぼす影響の検討、食欲をコントロールする方法、体組成が競技力に及ぼす影響 超高齢者アスリートの生活習慣、糖代謝異常を予防する食品			
2 研究活動実績			
著書			
論文	Aikawa Y, Murata M, Omi N. (2020). Relationship of height, body mass, muscle mass, fat mass, and the percentage of fat with athletic performance in male Japanese college sprinters, distance athletes, jumpers, throwers, and decathletes. J Phys Fitness Sports. 9(1):7-14.		
	Aikawa Y, Kakutani Y, Agata U, Hattori S, Ogata H, Kiyono K, Ezawa I, Omi N. (2019). Adequate Energy Intake Prevents Low Bone Mass Under Exercise and Low Intake of Nutrients in Young Female Rats. American Journal of Sports Science. 7(3):127-135.		
	Aikawa Y, Wakasugi Y, Narukawa T, Yamashita T, Sasai N, Umemura Y, Omi N, Ohtsuki M. (2019). Jump Exercise and Food Restriction on Bone Parameters in Young Female Rats. Calcif Tissue Int. 105(5):557-566.		
その他	相川 悠貴, 麻見 直美. (2020). 高高齢アスリートの食事状況. アンチ・エイジング医学. 16(1):35-39.		
学会等報告	相川 悠貴, 邨田 真優, 岩間 悠希, 麻見 直美. 男性大学生陸上競技選手における種目分類別の骨密度、練習時間、栄養素等摂取量の違い, 第6回日本スポーツ栄養学会, 東京, 2019. 8月.		
共同研究	不二たん白研究助成 若手研究「発育期雌ラットの食餌量制限による筋量減少とサテライト細胞に対する大豆たん白質摂取の効果」(代表者)		
助成研究	科研費 若手研究「食餌量不足条件でのジャンプ運動は骨強度を増加させるか?」(代表者) (課題番号: JP18K17843)		
II 教育活動			
1 担当科目：解剖生理学（食栄・昼・前期・2）、解剖生理学実験（食栄・昼・後期・1）、運動保健学（食栄・昼・後期・2）、 健康管理概論（食栄・前期・2）、校外実習事前事後指導（食栄・昼・通年・1）、特別演習（食栄・昼・通年・4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	陸上競技部顧問、バスケットボール部顧問、硬式テニス部顧問、軟式テニス部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）、食栄学生編入学指導（食栄2年生）		
教育上の工夫	解剖生理学（食栄・昼・前期・2）：人体を構築する器官・臓器・組織の形態・構造・働きについて、栄養の消化吸収や栄養士の疾病対策に特にかかわりの深い消化器を中心に授業を行った。パワーポイントとパワーポイント中に文字を書き込める機能を使用し、学生の興味を引くよう心掛けた。		
	解剖生理学実験（食栄・昼・後期・1）：人体の構造と機能に対する理解を深めさせるためことを目的に講義を行った。自身の身体を使った実験や、日常では観察することができない臓器切片の観察を行わせ、理解を深めさせた。		
	運動保健学（食栄・昼・後期・2）：健康のために有効な運動の知識を身に付けさせるため、基礎的な内容に加えて、最新の知見を紹介した。毎回の授業後にコメントを提出させ、そこに書かれた全ての質問に対して次の授業の初めに回答した。		
	健康管理概論（食栄・前期・2）：健康管理の制度について、栄養士が関連する内容について、ライフステージ毎の知識を身に付けさせた。学生の興味を引くため、最新の社会ニュースや動画を用い、学生でも用いられる制度の紹介を行った。授業毎に小テストを行い、知識の定着度を確認した。		
	校外実習事前事後指導（食栄・昼・通年・1）：栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。特に、実習先ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別に対応した。		
	特別演習（食栄・昼・通年・4）：骨に関する動物実験、運動や食欲に関するヒト実験を行い、学生の解剖生理学、生化学、栄養学の知識獲得に繋がる演習を行った。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本体力医学会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本スポーツ栄養学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	出前講座「健康のための運動と食事」、対象：津地方裁判所. 2019年10月. 高大連携授業出前講座。「活動の違いが食欲に与える影響の観察」. 2019年10月 みえアカデミックセミナー2019移動講座「健康のための運動と食事」. 2019年12月		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	名古屋芸術大学非常勤講師「健康スポーツ（レクスポ）、健康スポーツ（バレーボール）」 鈴鹿大学短期大学部非常勤講師「基礎栄養学」		
3 一言アピール 非スポーツ競技者、スポーツ競技者の両方に対する、健康へ導く運動と食生活の良い組み合わせについて説明していきます。 (研究テーマの応用例：健康教室の実施)			

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻	職名：助教	氏名：飯田 津喜美
I 研究活動		
1 研究課題：タンパク質の構造・機能に関する研究，ササゲ属マメに関する研究，食文化に関する研究		
2 研究活動実績		
著書	共著「伝え継ぐ日本の家庭料理」シリーズ，（一社）日本調理科学会三重県編集副責任者，農山漁村文化協会 No.12「米のおやつともち」2019年6月，No.14「漬物・佃煮・なめ味噌」2019年9月，No.5「汁もの」2019年12月，No.4「そば・うどん・粉もの」2020年3月	
論文	東浦菜々子，飯田津喜美：実践報告「地元食材を利用したレシピ開発 食で地域を盛り上げよう」三重短期大学生生活科学科紀要，No.68，21-25（2020）	
その他		
学会等報告	乾陽子，阿部雅里，飯田津喜美，磯部由香，鷺見裕子，萩原範子，奥野元子，久保さつき，小長谷紀子，駒田聡子，成田美代，平島円，水谷谷子：日本調理科学会2019年度大会特別企画「次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理 副菜の特徴 季節の産物を上手に活かした料理」，2019年8月，福岡市 飯田津喜美，寺岡佳晃，中辻匡俊，後藤祐児，山村堯樹，乾隆：「様々なpH条件におけるヒトリボカリン型プロスタグランジンD合成酵素の熱力学的安定性に関する研究」第92回日本生化学会大会，2019年9月，横浜市	
共同研究 助成研究	蛋白質を用いたドラッグ・デリバリー・システム（DDS）に関する研究（蛋白質の構造・機能解析） ササゲ属マメの国内外での利用圏と調理科学的利用法の検討 一般社団法人日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査員	
II 教育活動		
1 担当科目：給食計画実務論実習Ⅰ（食栄，昼，前期，1），校外実習事前事後指導（食栄，昼，前期，1），調理学実習Ⅰ（食栄，昼，前期，1），調理学実習Ⅲ（食栄，昼，後期，1），栄養教育論実習Ⅱ（食栄，昼，後期，1），校外実習事前事後指導（食栄，昼，後期，1），特別演習（食栄，昼，通年，4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	バレーボール部顧問	
学内教育活動 (その他)	食栄1年次生クラス担任，食栄2年次生クラス担任（就活指導等），オフィシアワー，学生食育サポーター育成・指導	
教育上の工夫	実験実習（食栄，昼，前期・後期，1.5） 実験実習が滞りなく進行するように担当教員の補佐を務めた。また，学生食育サポーター育成・指導では，学外で実施する子ども料理教室の献立に応じた作業工程をスライド等で説明し，理解しやすいように工夫した。 特別演習（食栄，昼，通年，4） 津市榊原地域の食文化調査研究では，地元食材を利用したレシピ開発を行い食の継承につなげる方策を検討した。文献の読み解き方，研究のまとめ方，プレゼン指導等を通して実社会で必要な知識及び技術の習得に努めた。	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本栄養士会，日本栄養改善学会，日本生化学会，日本調理科学会，日本蛋白質科学会，日本熱測定学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	三重短期大学地域連携センター2019年「榊原地域の食文化の優位性に関する調査研究」	
学外審議会委員等	三重県体育協会スポーツ医・科学委員会委員，2010年6月～（現在）日本栄養改善学会評議員，2018年11月～（現在）一般社団法人（一社）日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査員2012年～現在，三重県副責任者2014年～現在	
学外講演会講師等	小野はるみ，飯田津喜美，若杉悠佑（公財）三重県体育協会スポーツ医・科学委員会スポーツ栄養学班：「三重県フェンシング協会ジュニア選手の食生活および食に対する意識調査と食事バランスの調べ方」，スポーツ医・科学研究MIE第26巻，p.17-22(2019) 三重短期大学オープンカレッジ講師：「食卓を調理科学的な視点から考えよう タンパク質とその食品について」，2019年10月5日 スポーツ栄養指導教室講師（分担）：三重県フェンシング連盟海星中学校・高等学校，2019年10月18日	
その他の社会活動	三重県学生バレーボール連盟監事	
他大学非常勤講師	放送大学2019年度第2学期面接授業，食卓の調理科学，2020年1月11～12日 三重大学，調理学実習Ⅱ（三重創生ファンタジスタ科目，三重県の郷土料理），2019年10月27日	
3 一言アピール		
<p>タンパク質は，その構造や機能を調べることで様々な性質を知ることができます。現在，大阪府立大学との共同研究において，生体内輸送蛋白質であるリボカリン型プロスタグランジンD合成酵素（L-PGDS）を用いた新規ドラッグ・デリバリー・システム（DDS）の開発を目指し，本蛋白質の熱安定性及び機能性について調査しています。</p> <p>また，三重県の伝統食材（シロミトリ豆等）を調査し，調理科学的分析を行いながら有効利用法を研究しています。あわせて将来に残したい家庭料理・行事食の継承活動も行っています。</p> <p>（研究テーマの応用例：食材の調理科学的有効利用法の提案，食生活改善普及事業の実施と評価等）</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2019年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：助教	氏名：服部 知美
I 研究活動			
1 研究課題：機能性表示食品に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	服部知美 機能性表示食品の普及と管理栄養士、栄養士の役割についての検討, 三重短期大学地域問題研究所通信第136号, 1-9, ISSN1340-5780, (2019) 猪子明日香、齊藤百美、地金明美、中園由梨佳、服部知美 機能性表示食品を使用した献立の開発 三重短期大学生生活科学研究会紀要 No. 68 2019		
その他	「オフィスで実践！機能性表示食品ランチ」食品化学新聞 P5 2019年8月8・15日合併号		
学会等報告	服部知美、長村洋一 「公立中学校における子育て支援としてのデリバリー弁当サービスに対する管理栄養士としての取り組み」第66回日本栄養改善学会学術総会 富山2019.9 服部知美 「機能性表示食品の食生活改善への行動変容を喚起する媒体の一つとしての活用とその問題点」第23回日本病態栄養学会年次学術総会 京都2020.1		
共同研究	機能性表示食品を使用したレシピ集の作成（鈴鹿医療科学大学江口ゼミ）		
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：特別演習（食栄、昼、通年、4）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）、給食計画実務論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1）、生化学実験（食栄、昼、前期、1）、給食計画実務論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）		
教育上の工夫	円滑な実験実習の進行のための前日当日の準備、及び運営のための実習費の管理に努めた。特に給食計画実務論実習Ⅰでは、自身の現場経験に基づく細部にわたる助言、指導を心がけた。 特別演習（食栄、昼、通年、4）：機能性表示食品の機能性の調査、献立考案、栄養価計算、試作、調理、撮影、問題点の整理、論文作成へと進行させ、1年をかけて栄養士として必要な技術面、研究を幅広く習得できるカリキュラとした。		
学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本病態栄養学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「地域連携カフェHONOBUNONO」の補助 2019.12 三重短期大学出前講座「保健機能食品を利用してみよう」 東海税理士会津支部 2019.12 三重短期大学出前講座「保健機能食品を利用してみよう」 丸ノ内倶楽部 2020.3		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
健康の維持増進の要となる食生活について、地域の皆様が心から重要と感じ、食生活改善への行動変容へと導けるよう、講演会、論文等を通じて発信していきます。 また、生活習慣病予防のための若年層への教育活動にも今後さらに力を注いでまいります。			